

《2012 年度研究部活動報告》

1. 運営委員会

運営委員（任期 2011 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日）

| | | |
|----|-------|-------------------------------|
| 委員 | 萩原 昌幸 | （明治学院大学） |
| | 小川 英一 | （神奈川大学） |
| | 鈴木 学 | （日本女子大学） |
| | 新井 圭子 | （慶應義塾大学） |
| | 高橋 正広 | （早稲田大学） |
| | 伊藤 義裕 | （青山学院大学） |
| | 齋藤 雅彦 | （専修大学） |
| | 宮川 良男 | （東京理科大学）（2012,10,1～2013,3,31） |
| | 小林 愛 | （東京理科大学）（2011, 4,1～2012,9,31） |

研究部担当理事校 東京農業大学

第 1 回 2012 年 4 月 13 日（金）15:00～17:00 於：東京農業大学

1. 2011 年度研究部決算について
2. 2012/2013 年度研究分科会会員の更新結果について
3. 研究分科会の休会・再開・廃会について
4. 2012 年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について
5. 特別助成金の申請について
6. 2011 年度研究分科会活動報告について
7. 2011 年度研究分科会会計報告について
8. 2012 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
9. 2012 年度部会総会行事について
10. 研究分科会マニュアル 2012 年度版について
11. 2012 年度研究部運営委員会日程について
12. 2012 年度私立大学図書館協会スケジュールについて
13. その他
 - (1) 研究会（交流会）の講演者について

第 2 回 2012 年 5 月 18 日（金）13:00～14:30 於：東京農業大学

1. 研究分科会の廃止・休会について
2. 2012 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
3. 2012 年度研究分科会予算計画について
4. 2012 年度東地区部会総会・館長会・研究講演会について
5. 研究会（交流会）の開催計画について
6. その他
 - (1) 2012 年度私立大学図書館協会スケジュールについて
 - (2) 2012 年度研修分科会について

第 3 回 2012 年 6 月 8 日（金）12:00～12:30 於：東海大学

1. 研究講演会最終打ち合わせについて
2. 2012 年度研修分科会について

3. その他

- (1) 研究分科会活動再開願について
- (2) 研究分科会予算計画書（再提出）について

第4回 2012年 7月13日（金）15:00～17:00 於：青山学院大学

1. 2012年度研究会（交流会）について
2. 2012年度研究分科会夏期合宿（集中研究会）実施計画について

第5回 2012年10月 5日（金）15:00～17:00 於：日本女子大学

1. 2012年度研究会（交流会）について
2. 2012年度第2回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
3. 次期研究部運営委員の推薦について

第6回 2012年11月16日（金）11:00～11:50 於：専修大学

1. 2012年度第2回研究部運営委員・研究分科会代表者合同会議について
2. 2012年度研究分科会夏期研究合宿（集中研究会）実施報告について
3. 2012年度研究会（交流会）の運営について
4. 2013年度研究講演会講師と演題について

第7回 2012年12月14日（金）15:00～17:00 於：明治学院大学

1. 2012年度研究部中間決算について
2. 2013年度研究部活動計画（案）について
3. 2013年度研究部予算（案）について
4. 次期運営委員について
5. 2013年度研修分科会の会員募集について
6. 2013年度研究講演会の演題と講師について

第8回 2013年 3月15日（金）14:00～17:00 於：東京農業大学

1. 次期運営委員及び研修委員について
2. 2012年度研究部活動報告及び研究部中間決算について
3. 2013年度研究部活動計画(案)及び研究部予算（案）について
4. 研修分科会の募集状況について
5. 研究部担当理事校の引継について
6. 更新担当理事校の引継について
7. 月例会担当理事校の引継について
8. 研究分科会マニュアル2013年度版（案）について
9. 研究分科会の課題について
10. 研修委員会の活動について
11. 部会役員会の報告について

2. 運営委員・研究分科会代表者合同会議

第1回 2012年 5月18日（金）15:00～17:00 於：東京農業大学

1. 研究分科会の廃止・休会について
2. 2012年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について
3. 2012年度研究分科会の活動計画について
4. 2012年度研究会（交流会）について

5. 研究分科会マニュアル 2012 年度版について
6. 分科会関連業務の分担について
7. 協会ホームページについて
8. 2012 年度私立大学図書館協会スケジュールについて
9. 研究分科会代表者について

第 2 回 2012 年 11 月 16 日 (金) 12:30~13:40 於専修大学

1. 2012 年度研究会 (交流会) について
2. 夏期研究合宿 (集中研究会) について
3. 研究部報告書原稿・会計報告書の提出について
4. 次期運営委員について

3. 研究会 (交流会)

日 時 : 2012 年 11 月 16 日 (金)

会 場 : 専修大学生田キャンパス 120 年記念館 (9 号館) 2 階 92A 会議室

参加者 : 44 校 67 名

演 題 : 「大学図書館と共に拓く学術情報基盤の新たな地平

～国立情報学研究所のコンテンツ事業の新展開～」

国立情報学研究所 学術基盤推進部次長 尾城 孝一

研究分科会活動中間報告

6 研究分科会、研修分科会 各 10 分

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ①分類研究分科会 | 藤倉 恵一 (文教大学) |
| ②パブリック・サービス研究分科会 | 太田 優未 (立正大学) |
| ③西洋古版本研究分科会 | 宮原 柔太郎 (日本体育大学) |
| | 新谷 明日香 (中央大学) |
| ④企画広報研究分科会 | 島田 貴司 (立正大学) |
| ⑤和漢古典籍研究分科会 | 鶴田 香織 (大東文化大学) |
| ⑥L ラーニング学習支援システム研究分科会 | 高橋 泰行 (大正大学) |
| ⑦研修分科会 | 中島 悠史 (文化学園大学) |
| | 古庄 もも (国立音楽大学) |
| | 平木場 祐子 (上智大学) |

4. 研修委員会

研修委員 (任期 2012 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

委員長 山田 雅子 (慶應義塾大学)

委員 藤原 明子 (早稲田大学)

南川 真貴子 (中央大学)

佐々木 俊介 (桜美林大学)

杉谷 美和 (明治大学)

吉岡 享子 (東京農業大学) (任期 2011 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)

オブザーバー 伊原 千秋 (中央大学)

- 第1回 2012年 4月19日(木) 14:00~17:20 於:慶應義塾大学
1. 2012年度研修会の日程と会場について
 2. 2012年度研修会テーマについて
 3. 2012年度研修委員会の日程と会場について
- 第2回 2012年 5月17日(木) 14:00-18:00 於:早稲田大学
1. 2012年度研修会の会場について
 2. 2012年度研修会テーマについて
 3. 2012年度研修委員会の日程と会場について
- 第3回 2012年 6月4日(月) 14:00~17:20 於:桜美林大学
1. 2012年度研修会について
 2. 第4回以降の研修委員会の日程について
- 第4回 2012年 6月21日(木) 14:00~17:00 於:桜美林大学
1. 2012年度研修会について
 2. 懇親会について
 3. 研修会当日の役割分担について
 4. 第5回以降の研修委員会の日程について
- 第5回 2012年 7月24日(火) 14:00~17:00 於:東京農業大学
1. 2012年度研修会講師との連絡、進捗報告について
 2. 開催通知について
 3. 研修会のタイトルについて
 4. ポスター展示について
 5. 懇親会について
 6. 来年度研修会及び、次回研修委員会について
- 第6回 2012年 9月21日(金) 13:00~17:10 於:明治大学
1. 2012年度研修会参加申込状況について
 2. 2012年度研修会準備状況について
 3. スケジュールについて
 4. ポスター展示に関して
 5. saveMLAK グループワークについて
- 第7回 2012年 10月15日(月) 14:00~17:40 於:中央大学
1. 2012年度研修会会場の確認について
 2. 2012年度研修会準備状況について
 3. ポスター展示について
- 第8回 2012年 11月12日(月) 13:00~17:40 於:中央大学
1. 2012年度研修会会場確認について
 2. 研修会準備状況について
 3. ポスター展示について
 4. 司会原稿について
 5. 懇親会について

第9回 2012年 12月13日(木) 15:00~17:30 於:早稲田大学

1. 2012年度研修会報告について
2. 研修会を振り返って
3. 次年度研修会にむけて
4. 今後の予定

第10回 2013年 3月12日(火) 15:00~17:00 於:東京農業大学

1. 研修委員自己紹介について
2. 新旧事務局 引継ぎ報告について
3. 2013年度研修会、研修委員会の日程及び会場について
4. 2012年度の活動を振り返って
5. 2013年度研修会テーマについて

5. 研修会

日時: 2012年11月29日(木)~30日(金)

会場: 中央大学後楽園キャンパス3号館 10階31008大会議室

テーマ: 「震災に学び、震災に備える」

参加者: 72校 77名

内容:

第1日(11月29日)

基調講演 「図書館の復興支援と大学の役割」

東海大学工学部 建築学科 教授

杉本 洋文

講演 「そのとき私たちができたこと 東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災」

一橋大学 学術・図書部 学術情報課長

小陳 左和子

講演 「東日本大震災からの復旧過程で考えたこと、感じたこと

東北学院大学図書館の経験を基に」

東北学院大学中央図書館

佐藤 恵

第2日(11月30日)

ワークショップ

「大震災発生 そのとき図書館は？」

saveMLAK 岡本 真 他数名

- (1) 勤務館が大震災に遭遇したと仮定したシミュレーション演習
- (2) シミュレーション演習に基づく反省点の洗い出しと対策の検討
- (3) BCP(事業継続計画)の作成ブレインストーミング

6. 研究分科会

次の6研究分科会が、月例研究会、夏期研究合宿等の活動をおこなう。

(2012年4月1日～2013年3月31日)

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| (1) 分類研究分科会 | (4) 企画広報研究分科会 |
| (2) パブリック・サービス研究分科会 | (5) 和漢古典籍研究分科会 |
| (3) 西洋古版本研究分科会 | (6) Lラーニング学習支援システム研究分科会 |

休会：2012年4月 逐次刊行物研究分科会
2012年4月 レファレンス研究分科会
2012年4月 理工学研究分科会
2012年4月 情報リテラシー教育研究分科会
廃止：2012年4月 図書館運営戦略研究分科会

担当校

研究分科会月例会担当理事校 神奈川大学

研究分科会更新担当理事校 日本女子大学

7. 研修分科会（単年度活動）

- | | | |
|-----|-----------|-----------------------------|
| 第1回 | 5月30日（水） | 於：東京農業大学 |
| 第2回 | 6月28日（木） | 於：専修大学 |
| 第3回 | 8月23日（木） | 夏期見学ツアー（於：成蹊大学、明治大学、東京工業大学） |
| 第4回 | 9月20日（木） | 於：早稲田大学 |
| 第5回 | 11月8日（木） | 於：神奈川大学 |
| 第6回 | 12月20日（木） | 於：上智大学 |

《2012 年度研究分科会活動報告》

1. 分類研究分科会

代表者：藤倉 恵一（文教大学）

会員数：7名（正会員5名，個人会員2名）

会 員：川上 勝慎（獨協大学） 鈴木 学（日本女子大学）

藤倉 恵一（文教大学） 以上正会員

上條 庸子（女子栄養大学） 吉澤 由美子（清泉女子大学）

以上正 ML 会員

小林 美佐（昭和女子大学） 田中 環（文化学園大学）

以上個人 ML 会員

年会費：なし

例会開催回数：11回（合宿1回含む）

延べ参加者数：53名

研究分科会ホームページ URL：http://www.jaspul.org/pre/e_kenkyu/bunrui/

活動

1) 基本テーマ

件名，シソーラス，Indexing 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究を基本テーマとする。

今期は，過去2期の研究を継承し，現在日本図書館協会分類委員会で編纂中の「日本十進分類法（NDC）」新訂10版の試案について検証と評価，および必要な提言をすることをメインテーマとし，「その分類、大丈夫ですか？」とする。また，そのために必要な理論的基盤の研究についても並行して行う。

2) 活動の概要

分類研究分科会は2年間を(1)研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える，(2)主たる研究テーマの研究・検証を行う，(3)研究成果の発表および総括の3つの期間に分けて活動する。

2012年度は第1期から第2期，2013年度は第2期から第3期の活動を行う。

2. 1) 第1期 分類表の解説の理論的基盤を知る

第1期の活動として，NDC原編者もり・きよしによるNDCの公式解説書といえる「NDC入門」（1982年）を精読した（2012年5月～2012年10月）。これはNDC新訂8版に準拠したものだが，過去に刊行された「NDCのつかい方」（1966年，新訂7版準拠）の記述と比較しつつ，その内容の精度や有用性などを中心に検討した。

- ・ もり・きよし編「NDC入門」日本図書館協会，1982，178p.（図書館員選書，2）
- ・ 森清編「NDCのつかい方」日本図書館協会，1966，127p.（図書館の仕事，9）

さらに第1期の延長としてデューイ十進分類法（Dewey Decimal Classification：DDC）本体に付属している Glossary（用語解説）の翻訳と精読を行った（2012年11月～2013年2月）。上記NDC解説書にはNDCと分類の基本的な用語解説がそれぞれ付録として収

録されていたが、NDC 本体には付属していない。DDC 用語解説を検討することで、NDC 解説に足りない要素を検討することを目的とした。

また、前掲の NDC 解説書 2 種と DDC に加え、以下の各分類関係図書に付された用語解説を参照しながら、NDC に必要とされる用語とその定義を考察した (2013 年 3 月)。

- ・ ジャック・ミルズ [ほか] 著 ; 田窪直規 [ほか] 訳「資料分類法の基礎理論」日外アソシエーツ, 1997, 309p.
- ・ 丸山昭二郎, 岡田靖, 渋谷嘉彦著「主題組織法概論 : 情報社会の分類/件名」紀伊國屋書店, 1986, viii, 224p.
- ・ 丸山昭二郎, 丸山泰通編「図書分類の記号変換 : DDC, LCC, NDC」丸善, 1984, xii, 222p.
- ・ L. M. チャン著 ; 上田修一 [ほか] 訳「目録と分類」勁草書房, 1987, vii, 418p.
- ・ ロベルト・フーグマン著 ; 荒木啓介 [ほか] 訳「インデクシングによる情報内容の明示 : その原理と実際」情報科学技術協会, 2000, vi, 237p.

2. 2) 夏期研究合宿

夏期研究合宿は、第 1 期に関連して「図書分類の基礎と歴史を把握する」をテーマとして以下の文献の精読を行った。

- ・ 衛藤利夫「圖書分類ノ論理的原則」問宮商店, 1926, x, 79p. (図書館研究叢書, 第 2 篇)
 - ・ E. C. Richardson ; 加藤宗厚訳「分類法ノ理論及實際」園研究. 1(1), p.14 63, 1928
 - ・ 高田定吉「『日本十進分類法』を評す」図書館研究. 9(1), p.2 8, 1932
 - ・ 彌吉光長「日本十進分類法を打診す」図書館研究. 9(1), p.9 13, 1932
 - ・ 波多野賢一「日本十進分類法を批判す」図書館研究. 9(1), p.14 16, 1932
 - ・ と・たまゐ「日本十進分類法の考察」図書館研究. 9(1), p.17 24, 1932
 - ・ 高橋生「日本十進分類法一私見」図書館研究. 9(1), p.25 27, 1932
- (参考資料)「N.D.C.ニ對スル最近ノ諸批評ニ就イテ」園研究. 6(1), p.137 138, 1933

前 2 者は NDC 成立に影響を与えた国内・国外の基本文献であり、当時の国内の分類研究の水準を知る文献である。

後者は NDC 刊行後に芸艸会の雑誌で組まれた特集で、当時どのように NDC が評されていたかを考察した (特にこの特集は NDC に批判的な姿勢の記事ばかりを集めた)。

また、このテーマにあわせ合宿冒頭に TP&D フォーラム 2012 で行った研究発表「日本十進分類法の将来像 : NDC 温故知新」(後述)を再演した。

2. 3) 会場記録

| | |
|-----------------------|---------------------|
| 2012 年 4 月 24 日 (火) | 文教大学 (越谷) |
| 5 月 11 日 (金) | 獨協大学 |
| 6 月 15 日 (金) | 日本女子大学 (西生田) |
| 7 月 20 日 (金) | 清泉女子大学 |
| 9 月 5 日 (水) ~ 7 日 (金) | ホテル ラヴィエ川良 (静岡県伊東市) |
| 9 月 21 日 (金) | 女子栄養大学 (坂戸) |
| 10 月 12 日 (金) | 獨協大学 |
| 11 月 12 日 (月) | 文教大学 (越谷) |
| 12 月 21 日 (金) | 日本女子大学 (目白) |
| 2013 年 2 月 13 日 (水) | 東京家政大学 (板橋) |
| 3 月 8 日 (金) | ワーカーズ倶楽部 神田・大手町 (※) |

※ 正会員数の減少による各所属校の負担および所属校間の距離を勘案し、2013年以降は貸会議室等も使用していくこととする。

資料

1) 刊行物

特になし

2) 事業

ア. TP&D フォーラム 2012 (第 22 回整理技術・情報管理等研究集会) の共催

1991年に日本図書館研究会整理技術研究グループ(現・情報組織化研究グループ)により始められたTP&Dフォーラムは、第2回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2012年度は京都で開催され、分科会からは藤倉・上條・小林の3名が出席した。

フォーラムの参加者は教員、図書館員、データベース業者などさまざまであり、これに分科会が参加・関与することの利点は(1) 主題組織分野における最新の研究動向の把握、(2) 分野を同じくする教員や研究者との交流、(3) この分野の研究基盤継承への貢献であるといえる。

今回のフォーラムでは、会員から藤倉が「日本十進分類法の将来像：NDC 温故知新」と題し、NDCの成立過程と10版改訂の進捗について研究発表を行った。この内容については近日刊行される『TP&D フォーラムシリーズ(整理技術・情報管理等研究論集)』XXIIに論文「日本十進分類法の史的研究：黎明期(1928 1949)」として掲載予定である。

なお、2013年度は8月23・24日に横浜にて開催される予定である。

イ. 日本図書館協会分類委員会への参画

2007年度より、分類研究分科会を代表して藤倉がNDCの編纂に携わっている。これによって、分類研究分科会での研究成果を多少なりともNDCの編纂に役立てることができ、逆に最新の動向を分科会に持ち帰ることができる。

なお、第2期の活動の中心となるNDC試案に対する批評については、編纂者としての立場とは直接無関係な活動として実施・公表する予定である。

(文責・藤倉恵一)

2. パブリック・サービス研究分科会

代表者：太田 優未（立正大学）

会員数：7校7名

会 員：田中 優美（駒澤大学）

福庭 規子（上智大学・会計担当）

嶋下 歩美（大正大学・副代表・HP担当）

富樫 早苗（東海大学）

高島 豊（獨協大学・合宿担当）

奥井 翔太（文化学園大学・副代表・HP担当）

太田 優未（立正大学・代表）

年会費：8,000円（正会員）

例会開催回数：10回（夏期研究合宿含む）

延べ参加者数：55人

研究分科会ホームページURL：http://www.jaspul.org/pre/e_kenkyu/public/

活動

1) 基本テーマ

国内外の利用者サービスについての情報を収集し、知識の共有や現状把握に努める。また、来館・非来館に関わらず、様々な利用形態を想定した上で、利用者満足度の高いサービスについて調査・研究を進めていく。

利用者が満足することはもちろん、提供する側の図書館員やそれらに関わるすべての人たちが成長できるようなパブリック・サービスを示したい。

2) 活動の概要

今年度前半は、分科会活動の全体テーマを決めるにあたり、個人テーマによる研究発表を中心に会員それぞれの問題意識や興味のある事柄について、幅広く情報共有を行った。後半は、個人研究発表からテーマの絞り込みを行い、全体テーマを決定した。その後、来年度発行のスタートブック作成に向け、関連する図書館の見学、テーマ講義、課題研究発表等のグループ研究を行った。また、会員が所属する図書館の見学も積極的に行った。

①グループ研究

今期は「始めてみよう！図書館サービス・スタートブック」というテーマのもと、これから新しくサービスを始めるとき、これまでのサービスを改善したいときに参考となるハンドブックを作成するための研究活動を行った。

②図書館見学・講義

国内外の先進的な事例、それぞれの図書館における特徴的な要素等を抽出して、一目でわかる事例・提言集として、来年度発行のスタートブックをまとめることを目標に、先進的な取り組みを行っている図書館の見学やそれらの活動に携わる教職員からお話を伺った。

資料

1) 月例会テーマ

4月例会：4月23日（月）13:00～17:00 文化学園大学（新都心キャンパス）

①「パブリック・サービス研究分科会の活動について」

慶應義塾高等学校事務長 加藤好郎氏

②担当の決定・引き継ぎ

5月例会：5月24日（木）13：00～17：00 文化学園大学（新都心キャンパス）

①「アメリカの大学図書館の現状」

慶應義塾高等学校事務長 加藤好郎氏

②研究テーマの出し合い

6月例会：6月19日（火）13：30～17：30 上智大学（四谷キャンパス）

①個人テーマによる研究発表

7月例会：7月20日（金）9：30～17：00 立正大学（大崎キャンパス）

①個人テーマによる研究発表

②丸善学術情報ソリューションセミナー

「変革期の大学に求められる大学図書館の将来像」

夏期研究合宿：9月3日（月）～5日（水） 水上温泉の宿・旅館（群馬県）

①個人テーマによる研究発表

②「会員の個人研究発表に対する講評、および提言」

慶應義塾高等学校事務長 加藤好郎氏

③全体テーマの絞り込み

10月例会：10月26日（金）10：00～17：00 獨協大学

①獨協大学図書館見学

②課題（事例調査）発表

③中間報告準備

11月例会：11月27日（火）10：00～17：00 上智大学（四谷キャンパス）

①上智大学図書館見学

②課題（先行研究・文献調査）発表

③千葉大学アカデミック・リンク・センター、附属図書館本館見学

12月例会：12月21日（金）10：00～17：00 文化学園大学（新都心キャンパス）

①文化学園大学図書館、ファッションリソースセンター見学

②スタートブック収録項目の絞り込み

1月例会：1月25日（金）10：30～17：30 立正大学（大崎キャンパス）

①立正大学情報メディアセンター見学

②スタートブック収録項目の絞り込み、ページ構成の検討

③「新しいサービスを始めるときまたはサービスを改善しようとしたとき

図書館員が気をつけないといけないこと、持つべき問題意識

～サブジェクト・ライブラリアンとしての知識・技能・感性～

慶應義塾高等学校事務長 加藤好郎氏

3月例会：3月22日（金）10：00～17：00 大正大学

①大正大学附属図書館、ラーニングコモンズ見学

②スタートブックページ構成、収録内容の検討

③「大正大学ラーニングコモンズの企画・運営について」

大正大学教学支援部学務支援課コンシェルジュ 岩下明子氏

2) 刊行物及び事業

『始めてみよう！図書館サービス・スタートブック』（2013年度発行予定）

3. 西洋古版本研究分科会

代表者：岡田勢一郎（共立女子大学）

会員数：5校5名

会員：岡田勢一郎（共立女子大学）
宮原柔太郎（日本体育大学）
新谷明日香（中央大学）
松谷有美子（清泉女子大学）
児玉千尋（成蹊大学）

年会費：1,500円

例会開催回数：10回（夏期集中研究会を含む）

延べ参加人数：45名

研究分科会ホームページURL：http://www.jaspul.org/pre/e_kenkyu/early_p_book/

活動

1) 基本テーマ

- ①西洋古版本に関する書誌学的研究(書誌学的知識の習得も含む)
- ②図書館で西洋古典資料を扱う際に必要な知識の習得

2) 活動の概要

西洋古版本に関する文献を読み基礎知識習得に努めるとともに、講師の指導を受け、貴重書の特徴の理解を深めた。会員の所属機関が所蔵する西洋古版本を用いて資料整理の実践を行った。

資料

1) 月例会テーマ

4月例会

4月23日（月） 専修大学 参加者5名

- ①今年度の活動計画と各自の役割分担
- ②分科会活動内容の概要
- ③引き継ぎ事項の確認
- ④図書館見学

5月例会

5月30日（水） 共立女子大学 参加者3名

- ①前年度研究発表の分析
- ②運営委員・研究分科会代表者合同会議出席報告
- ③図書館見学

6月例会

6月28日（木） 日本体育大学 参加者3名

- ①『洋書の話』第1章～第3章 輪読
- ②今後の活動内容の確認
- ③図書館見学

7月例会（夏期合宿）

7月25日（水）～26日 国立女性教育会館 参加者（延べ人数）8名

- ①一橋大学社会科学古典資料センタ
- ②講義 加藤好郎氏「グ テンベルグ聖書と大学図書館経営」聴講
- ③印刷博物館見学

8月例会

- 8月29日(水) 中央大学 参加者3名
- ①『洋書の話』第4章～第9章 輪読
- ②図書館見学

9月例会

- 9月14日(金) 日本体育大学 参加者6名
- ①馬場幸栄氏の講習会
 - ・貴重書閲覧の常識・非常識(1)
 - ・貴重書閲覧規則の検討

10月例会

- 10月5日(水) 中央大学 参加者6名
- ①馬場幸栄氏の講習会
 - ・貴重書閲覧の常識・非常識(2)
 - ・貴重書の定義について

12月例会

- 12月14日(火) 日本体育大学 参加者3名
- ①馬場幸栄氏の講習会
 - ・ウォ タ マ クについて

1月例会

- 1月29日(水) (株)プリザベーション・テクノロジーズ・ジャパン
参加者4名
- ①資料の保存について(脱酸処理方法)
- ②保存環境

3月例会

- 3月14日(木) 日本体育大学 参加者4名
- ①研究テーマについて
- ②図書館見学

2) 刊行物及び事業

特になし

4. 企画広報研究分科会

代表者：島田 貴司（立正大学）

会員数：8名（正会員4名、個人会員1名、個人MLネット会員1名、オブザーバーMLネット会員2名）

会 員：間島 一美（昭和女子大学／正会員）

粕川 悠介（成城大学／正会員）

立木 加奈子（帝京大学／正会員）

島田 貴司（立正大学／正会員）

村上 明子（桐蔭横浜大学／個人会員）

高木 彩（白百合女子大学／個人MLネット会員）

小曾川 真貴（愛知県犬山市立図書館／オブザーバーMLネット会員）

寺島 陽子（奈良女子大学／オブザーバーMLネット会員）

年会費：2,000円（正会員）、1,000円（正会員以外）

例会開催回数：11回（夏期集中研究会含む）

延べ参加者数：45人

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/kikaku/index.htm>

活動

1) 基本テーマ

図書館の企画・広報方法論の研究：専任職員の削減と外部委託の拡大という現場状況のもとで大学図書館員という職種の社会的評価の向上を目指し、業務改善に直結する企画広報力の増進を図るために、実業界で使われている方法論に関する実践的共同研究を行う。

2) 活動の概要

今年度前半は、過去に企画広報研究分科会に参加し、その後、様々な分野で活躍されているOBの方々からテーマを絞った講演をしていただきながら、企画広報についてのイメージとこれからの研究テーマについての検討を行った。夏期集中研究会を経て、「アンケート調査の可能性」と、「ムービーを使った図書館広報の可能性」についてのテーマを決定した後、テーマの研究を進めながら、メンバーが気になる企画広報に関連する様々な活動を中心に見学や講演を依頼し、活動を進めている。

資料

1) 月例会テーマ

4月例会：日程：4月27日（金）13：00～17：00

場所：帝京大学メディアライブラリーセンター 3階会議室

今期オリエンテーション

- ・企画広報研究分科会の歴史について講義

帝京大学総合教育センター准教授 仁上 幸治 氏

- ・図書館見学

5月例会：日程：5月17日（木）13：30～17：00

場所：立正大学大崎キャンパス情報メディアセンター

11号館地下1階 グループ閲覧室C

アイデアと実際にできたものの隔たり

- ・講演「アイデアと実際にできたものの隔たり」
六弦堂～編集・企画・コピーライト 坂本 慶太 氏
- ・図書館見学

6月例会：日程：6月8日（金）13：00～17：00

- 場所：昭和女子大学 80年館 図書館4階 ガイダンスルーム
個性を訴求するアイデンティティとデザイン
- ・講演「個性を訴求するアイデンティティとデザイン」
帝京大学総合教育センター 准教授 仁上 幸治 氏
 - ・図書館見学

7月例会：日程：7月13日（金）13：00～17：00

- 場所：成城大学図書館 4階会議室
図書館経営について考えてみよう
- ・講演「図書館を運営することとは」
相模女子大学 大学事務部長 小田切 良友 氏
 - ・図書館見学

夏期集中研究会：

- 日程：9月3日（月）～4日（火）
場所：立正大学大崎キャンパス 11号館 11階 第5会議室B
- 利用者計画論
- ・今期テーマの絞り込み作業
 - ・講演「利用者教育論」
帝京大学総合教育センター 准教授 仁上 幸治 氏

新館計画論

- ・今期テーマの確定作業
- ・講演「新館計画論」
帝京大学メディアライブラリーセンター
グループリーダー 中嶋 康 氏

10月例会：日程：10月25日（木）10：00～17：30

- 場所：昭和女子大学 80年館 図書館4階 グループ研究室
紀伊國屋書店「ほんのまくら」企画を聴く
- ・講演「紀伊國屋書店『ほんのまくら』企画を聴く」
紀伊國屋書店新宿本店 仕入課 係長 伊藤 稔 氏
 - ・今後の活動計画について

11月例会：日程：11月27日（火）10：00～14：30

- 場所：和光大学附属梅根記念図書・情報館
和光大学図書館学生プロジェクト LRP(Let's Read Project)見学
- ・和光大学附属梅根記念図書・情報館見学
 - ・和光大学附属梅根記念図書・情報館 LRP 活動見学

12月例会：日程：12月21日（金）10：00～17：00

- 場所：学習院女子大学 2号館 224教室 ⇒ 立正大学大崎キャンパス

情報メディアセンター11号館2階 グループ閲覧室 E
図書館の利用者促進のためのアンケート処理（導入編）

- ・講演「アンケート処理の初歩・実践事例」
学習院女子大学 准教授 萱 忠義 氏
- ・アンケート処理のための事前準備・検討

1月例会：日程：1月24日（木）10：00～16：30

場所：成城大学図書館4階会議室 ⇒ 編集工学研究所事務所
図書館の利用者促進のためのアンケート処理（実践編1）

- ・アンケート処理のための事前調査結果紹介
- ・アンケート項目・内容の検討
- ・講演「読む人をつくる仕事」

編集工学研究所

主任研究員／チーフプロデューサー 櫛田 理 氏
ブックウェアディレクター 和泉 佳奈子 氏
グラフィックデザイナー 佐伯 亮介 氏
映像ディレクター 小森 康人 氏

2月例会：日程：12月21日（金）10：00～17：00

場所：立正大学大崎キャンパス 11号館11階 第5会議室 A
図書館の利用者促進のためのアンケート処理（実践編2）

- ・追加調査結果内容の共有
- ・アンケート項目検討

3月例会：日程：3月28日（木）10：00～17：00

場所：帝京大学メディアライブラリーセンター 3階会議室
図書館の利用者促進のためのアンケート処理（実践編3）

- ・アンケート票確定作業

ムービーを使った効果的な広報について考える

- ・ムービーの使い方を知る／ムービーを作ってみる
- ・講演「オリエンテーション論」

帝京大学総合教育センター 准教授 仁上 幸治 氏

2) 刊行物及び事業

特になし

5. 和漢古典籍研究分科会

代表者： 鶴田香織（大東文化大学）

会員数： 6校6名 + 講師1名

会 員： 鶴田 香織（大東文化大学） 山岸いづみ（共立女子大学）
植苗 翔（中央大学） 鈴木 秀子（明治大学）
七島美和子（専修大学） 横山 侑子（立正大学）
高橋良政講師（元日本大学）

年会費： 2,000 円

例会開催日数： 11回（夏期集中研究会を含む）

延べ参加者数： 74名

研究分科会ホームページURL：

http://www.jaspul.org/pre/e_kenkyu/kotenseki/index.html

活動

1) 基本テーマ

日本・朝鮮・中国で刊行された和漢古典籍についての書誌学的研究を通じて、大学図書館員としての知識を深め、目録作成等の技能の向上を図る。

2) 活動の概要

- ・古典籍・書誌学について知識を得るため、基礎的文献をテキストとして書誌用語発表。今年度テキスト：堀川貴司著『書誌学入門』勉誠出版，2010
- ・会場校所蔵の古典籍について、実際に調書を作成し、適宜講師の批評・指導を受けた。
- ・会場校の図書館で古典籍の見学をし、各大学の装備方法、保存方法などについて見聞を広めた。

資料

1) 月例会テーマ

第1回：2012年4月20日（金） 於中央大学図書館・参加8名

- ①会員自己紹介、月例会活動内容の説明と今期の活動方針決定
- ②役員及び月例会日程の決定
- ③講師より調書の書誌用語説明
- ④会場校図書館・企画展見学

第2回：2012年5月25日（金） 於共立女子大学図書館・参加7名

- ①夏期集中研究会の日程・内容の検討
- ②テキスト『書誌学入門』書誌用語発表
- ③調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第3回：2012年6月29日（金） 於明治大学図書館・参加7名

- ①夏期集中研究会の日程・内容確認
- ②テキスト『書誌学入門』書誌用語発表
- ③会場校図書館・企画展見学
- ④調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第4回：2012年7月20日（金） 於大東文化大学図書館・参加7名

- ①夏期集中研究会の日程・内容確認
- ②テキスト『書誌学入門』書誌用語発表
- ③会場校図書館見学
- ④調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

夏期集中研究会第1日目：2012年8月27日(月) 参加7名

午前：国立公文書館

- ①施設概要説明・見学
- ②所蔵漢籍の閲覧・解説

午後：東京大学東洋文化研究所

- ①施設概要説明・見学
- ②所蔵漢籍の閲覧

夏期集中研究会第2日目：2012年8月29日(水) 参加7名

午前：紙の博物館

- ①企画展示「夏の紙知(シ) リーズ 記録と紙に記す～」展見学

午後：東洋文庫

- ①ミュージアムおよび企画展「ア！教科書で見たぞ」展見学
- ②施設概要説明・見学
- ③古典籍閲覧・解説

第5回：2012年10月19日(金) 於明治大学図書館・参加6名

- ①研究分科会活動中間報告発表内容検討
- ②テキスト『書誌学入門』書誌用語発表
- ③会場校図書館見学
- ④調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第6回：2012年11月9日(金) 於立正大学情報メディアセンター・参加6名

- ①研究分科会活動中間報告発表内容検討
- ②会場校図書館見学
- ③調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第7回：2012年12月21日(金) 於中央大学図書館・参加6名

- ①次回例会について
- ②テキスト『書誌学入門』書誌用語発表
- ③調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第8回：2013年1月25日(金) 於神奈川県立金沢文庫・参加6名

- ①企画展「法華経の世界」見学
- ②資料閲覧
- ③図書閲覧室・閉架書庫見学

第9回：2013年3月8日(金) 於専修大学図書館・参加7名

- ①テキスト『書誌学入門』書誌用語発表
- ②来年度研究報告大会テーマ検討
- ③会場校図書館見学

2) 刊行物及び事業

特になし

6. Lーラーニング学習支援システム研究分科会

代表者：小田切夕子（麻布大学）

会員数：7校7名（正会員6名、個人会員1名）

会 員：[正会員]

小田切夕子（麻布大学）

金子和代（早稲田大学）

高橋泰行（大正大学）

村上明子（桐蔭横浜大学）[2013.10～]

[正MLネット会員]

佐藤恵（東北学院大学）

澁田勝（獨協大学）

[個人会員]

小山信弥（関東学院大学）

年会費：0円

例会開催回数：3回（夏期集中研究を含む）

延べ参加者数：19名

研究分科会ホームページURL：http://www.jaspul.org/pre/e_kenkyu/lls/

活動

1) 基本テーマ

大学図書館員の自己点検、自己評価、自己研鑽を目的とした学習支援システムの構築並びに評価、分析

2) 活動の概要

日常業務から図書館界の旬の話題まで、大学図書館員が直面する課題は、年々その多様性を増している。けれども、様々な要因からこれらの課題への対応を一人で担っているケースも多く、そこでは、問題解決のための経験の積み重ねや知識の継承が難しいため、スムーズに問題を解決することが困難な状況も生じている。

こうした背景の中で、当分科会（通称エルラ）では、改めて今、大学図書館員のためのコミュニティ作りが重要なのではないかと考えている。

そこで今期は、図書館員による図書館員のためのサブジェクト・リポジトリシステムを基盤としながら、リポジトリ運営担当者を支援するコンテンツ作成を一つの事例として取り上げて、新たに Twitter や FaceBook が大学図書館員のためのコミュニティ形成ツールとなりえるのかについて検討を行っている。

資料

1) 月例会テーマ

・第1回例会

2012年6月12日（火）13:30 17:00 機械振興会館

1. 自己紹介、役割分担、事務連絡
2. 前期までの研究の流れについて
3. 今期の研究課題の設定
4. 今期の研究スケジュール
5. 夏期合宿（集中研究）について

・夏期集中研究会

2012年8月9日（木） 10日（金） 東京文化会館

1. 機関リポジトリ運用開始時の担当者支援コンテンツに関する検討
2. 講演：阿部潤也氏（東京歯科大学図書館）「機関リポジトリを知る」
3. 見学会

(1)東京藝術大学附属図書館

(2)東京文化会館音楽資料室

・ 第3回例会

2012年10月10日(水) 14:00 17:00 NPO 法人大学図書館支援機構

1.事務連絡

2.FaceBook 運用方法について

3.交流会報告内容の検討

4.今後のスケジュールについて

2) 刊行物及び事業

【TakaQによるLラーニング】

<http://www.llearning.jp/takaq/>

【XoopsによるLラーニング】

<http://www.llearning.jp/xoops/>

【MoodleによるLラーニング】

<http://www.llearning.jp/moodle/>

【携帯電話によるLラーニング】

<http://llearning.jp/i/>

【大学図書館員のためのリポジトリ】

<http://www.llearning.jp/xoonips/>

《2012 年度研修分科会活動報告》

研修分科会

代表者：合田 豊二（研究部担当理事校：東京農業大学）

会員数：15 名

会 員： 増田 雄一（麻布大学） 野澤 宏子（跡見学園女子大学）
 内田 直子（神奈川大学） 古庄 もも（国立音楽大学）
 川口 愛子（相模女子大学） 鈴木 絵里香（実践女子大学）
 平木場 祐子（上智大学） 大川 玲子（上智大学）
 恒次 和美（専修大学） 柴本 鋼平（東京農業大学）
 赤塚 勝（東邦大学） 竹久 純雄（東洋学園大学）
 中島 悠史（文化学園大学） 高橋 亜弓（立教大学）
 上森 ゆかり（和光大学）

※登録会員の参加が困難な場合は、所属機関より、各回、別の者が受講することも可能。

年会費：5,000 円

開催回数：6 回

延べ参加者数：96 名

研究分科会ホームページURL：http://www.jaspul.org/e_kenkyu/el_ken_b/

活動

1) 基本テーマ

発展し続ける情報化社会の中で大学図書館職員にとって必須の基本的知識を実態に即した技術として習得することをテーマに、既存の研究分科会参加の準備機能を持つ場として 2009 年度に新設された。

研修内容と目的概略

- ① 大学の中で、図書館員の役割を理解できるようにする。
- ② 利用者に必要な情報を組織的かつ迅速に対応できるようにする。
- ③ 情報化社会の最新情報に到達し実務に反映できるようにする。

2) 活動の概要

研修は NPO 法人大学図書館支援機構の企画・運営で行い、研究部担当理事校が運営を管理する。各回とも、テーマに基づいた、事前学習・講演・グループ討議等を実施する。

資料

1) 月例会テーマ

第 1 回 2012 年 5 月 30 日（水） 東京農業大学（世田谷）

講 演：機関リポジトリ

（東京歯科大学：阿部 潤也 氏）

実 習：L ラーニング研究分科会 図書館員のためのリポジトリ

（L ラーニング学習支援システム研究分科会代表：小田切 夕子 氏）

第 2 回 2012 年 6 月 28 日（木） 専修大学（生田キャンパス）

課 題：危機管理について自館の事例を調べる

講 演：そのとき私たちができたこと

～東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災～

（一橋大学附属図書館：小陳 左和子 氏）

グループ討議：危機管理について

第3回 2012年8月23日(木) 夏季見学ツアー

見学先：成蹊大学情報図書館(吉祥寺)
明治大学和泉図書館(明大前)
東京工業大学附属図書館(大岡山)

第4回 2012年9月20日(木) 早稲田大学(早稲田)

課題：研修分科会中間レポート
講演：企画力
(アカデミックリソースガイド：岡本 真 氏)
ワークショップ：企画発表

夏季見学ツアー
写真上映会・報告会

第5回 2012年11月8日(木) 神奈川大学(横浜)

課題：古今東西図書館協力事典 分筆
講演：JUSTICE (大学図書館コンソーシアム連合) の設立経緯と活動
(国立情報学研究所 学術基盤推進部図書館連携・協力室長：熊淵 智行 氏)
課題発表/グループ作業：『古今東西図書館協力事典』

第6回 2012年12月20日(木) 上智大学(四ツ谷)

課題：①米澤氏講演を聞くために、中教審答申(平24.8)を事前に読んでおいて
ください。
②各大学の教育の特色は何かを調べてきてください。
講演：大学教育に貢献するための大学図書館の在り方
(東北大学附属図書館 総務課長：米澤 誠 氏)
実習：インストラクショナルデザインの技法
(NPO 法人大学図書館支援機構：高野 真理子 氏)
ワークショップ/発表：各大学の教育の特色をアピール

2012年度研究会(交流会)

日時等：2012年11月16日(金) 専修大学生田キャンパス 120年記念館
報告者：国立音楽大学図書館 古庄 もも
上智大学図書館 平木場 祐子
文化学園大学図書館 中島 悠史

2) 刊行物及び事業

特になし

《研究分科会刊行物一覧》

| 分科会名 | 分類 研究分科会 | パブリック・サービス 研究分科会 | 西洋古版本 研究分科会 | 企画広報 研究分科会 | 和漢古典籍 研究分科会 | ラーニング学習支援 システム研究分科会 |
|----------------------------------|-------------|-------------------------------------|----------------|---------------|----------------|------------------------|
| 書名 又は 誌名 | なし | パブリック・サービス 研究分科会活動報告書 | なし | なし | なし | なし |
| 刊行 頻度 | | 隔年1回（各期で1回） | | | | |
| 価格 | | 無料 | | | | |
| 発行 部数 | | 40部 | | | | |
| 配布 対象・ 頒布 方法・ 在庫 | | 分科会会員、分科会会員 所属機関などに配布。 在庫は僅少。 | | | | |
| 発行 目的・ 主な 内容 | | 分科会の研究報告。 | | | | |
| コメ ント・ 今後 の刊 行予 定 | | | | | | |

《2012 年度研究分科会月例会について（報告）》

研究部担当理事校 東京農業大学図書館
月例会担当理事校 神奈川大学図書館

【2011 年度 4 月から担当】
【2011 年度 4 月から担当】

1. 月例会・夏期研究合宿開催状況(2013 年 2 月 1 日現予定含)

| 研究分科会名称 | 月例会 開催数 | 夏期合宿(集中研究会) 開催期間 |
|---------------------|------------|---------------------|
| 分類 研究分科会 | 10 | 9月 5日～ 9月 7日 (合宿) |
| パブリック・サービス 研究分科会 | 9 | 9月 3日～ 9月 5日 (合宿) |
| 西洋古版本 研究分科会 | 8 | 7月 25日～ 7月 26日 (合宿) |
| 企画広報 研究分科会 | 10 | 9月 3日・4日 (集研) |
| 和漢古典籍 研究分科会 | 9 | 8月 27日・29日 (集研) |
| ラーニング学習支援システム 研究分科会 | 8(6) | 8月 9日・10日 (集研) |

*月例会開催数の () はメーリングリスト開催で内数

*夏期合宿・集中研究会内訳 (【】は前年度)

夏期合宿 3【3】、集中研究会 3【5】、実施せず 0【1】

2. 2012 年度中の動き

本年度は 2 年度周期で活動する研究分科会の更新期に当たる。最終的に 6 研究分科会が 2012 2013 年度の活動を開始。1 研究分科会が再開、4 研究分科会が休会、1 研究分科会の廃止が決定した。特に、再活動を果たした研究分科会は、唯一、将来に向け明るい材料を提供した。会員異動は 7 件(中途入会 5、退会 1、区分変更 1)。平均会員数は 5～10 名以内。月例会回数は、平均 9 回で前年度の 8.6 回を上回った(震災の影響有)。研究分科会活動の主目的の一つである、夏期合宿(集中研究会)も全て実施された。また、交流会における各活動報告は、短時間であったが、全般的にまとまりのある内容となった。

3. 今後の課題

前年度の会員募集時と同様、更新後の会員構成の内訳は、継続者が減少し新規者が増加した。やはり、研修分科会(実施 4 年)と報告大会等の実績は評価したい。新規者の増加は望ましいが、後継者を育てるという意味で、継続者の安定的確保は、今後も大きな課題の一つである。

一方、各大学図書館の専任職員減少化傾向(業務委託化推進等)は、研究分科会および研修分科会(2011(28 名)、2012(15 名))参加状況に反映し、研究部存続の根幹を揺るがす事態も予測される。継続課題である、活動期間中における会員の人事異動(資格変更等)に伴う、研究分科会活動の停止(休会)問題も、上記現象と密接に関連している。事実、本年度実績ある 4 研究分科会の休会決定は、正に早期課題として取り組まなければならない必要性を実証した。専任職員が置かれている現状を踏まえ、改めて研究部の将来像を議論すべき時期であると考えます。

近年、大学教育における図書館機能の重要性、多様化する資料形態の対応がクローズアップされてきた。各図書館の更なる利用者支援の取り組みを通じて、新たな研究分科会が育ち、同時に全研究分科会の活性化を期待したい。また、研究部主導による、研究分科会活動の積極的広報発信は、将来を見据えた有効な手段であると確信する。

《2012 年度更新担当業務（報告）》

研究部担当理事校 東京農業大学図書館

分科会更新担当理事校 日本女子大学図書館

1. 2012 年度の更新担当業務の概要

2012 年度更新担当の業務として以下の手続きを行う。詳細については次節以降で述べる。

- 2012 13 年度研究分科会更新手続き後の名簿引継
- 2012 年度研修分科会更新手続き後の名簿引継
- 2013 年度研修分科会会員更新
- 分科会会員募集期間の延長について
- 分科会会員募集期間延長に伴う手続きの変更について
- 研究分科会の広報について

2. 2012-13 年度研究分科会更新後の名簿引継

2012 13 年度研究分科会参加応募者について、参加許諾を各研究分科会代表者に確認し、3 月末日で参加会員を確定した。会員確定時点での各研究分科会参加者の名簿を作成し、月例会担当へ引き継いだ。以降の研究分科会の会員更新は月例会担当の業務となる。

3. 2012 年度研修分科会更新後の名簿引継

2012 年度研修分科会参加応募者について、参加許諾を研究部で確認し、3 月末日で参加会員を確定した。会員確定時点での研修分科会参加者の名簿を作成し、月例会担当へ引き継いだ。以降の研修分科会の会員更新は月例会担当の業務となる。

4. 2013 年度研修分科会会員更新

2013 年度研修分科会会員更新の手続きを以下の流れで行った。過去の手続きより追加された事項がいくつかあり、それらについては後の節で述べる。

- | | |
|-------------|---|
| 2012 年 11 月 | 中旬に 2013 年度研修分科会募集要項原稿を担当理事校・東京農業大学へ依頼（研修分科会の代表は研究部担当理事校）。12 月中旬に受領。 |
| 12 月 | 中旬に各研究分科会へ広報用チラシ原稿募集。12 月下旬までに活動中の 7 分科会すべてから原稿提出。研究分科会広報紙として「いま活動している研究分科会」編集。※ |
| 2013 年 1 月 | 2013 年度研修分科会会員募集の書類一式を東地区加盟館宛てに発送。応募締切として、第一次締切を 2 月 28 日に、最終締切を 4 月 12 日に設定する。研究分科会広報紙「いま活動している研究分科会」を同封する。※ |
| 2 月末 | 研修分科会応募締切（第一次・28 日）。 |
| 3 月 | 研究部運営委員会で第一次応募者の参加諾否を確認。（3 月開催の運営委員会にて） |

3月末 2013年度研修分科会参加会員確定通知発送。

4月 研修分科会応募締切（最終・12日）。※

※印は今回更新手続きで追加された事柄。

5. 分科会会員募集期間の延長について

2013年度研修分科会会員更新手続きから応募期間を延長した。それに伴い応募締切日として今までの手続期限であった2月末日（28日）を第一次締切日に、さらに4月中旬（12日）を最終締切日に設定した。これにより、年度明け4月より図書館勤務となる職員を募集対象に含めることができるようになる。研修分科会では過去に、応募状況に合わせて追加募集として応募期間の延長をすることもあったが、今後は2回の締切日を募集文書に明記するとともに定着させることにした。

これにならう形で、研究分科会でも同じように応募期間を延長する。第一次および最終の締切日は研修分科会の手続きと同じ設定である。変更後の分科会応募期間から会員確定までの流れを、変更前と比較すると下記のようなになる。

| | 変更前 | 変更後 |
|------|-----------|-------------------|
| 1月中旬 | 分科会応募書類発送 | （変更なし） |
| 2月末 | 応募締切 | 応募締切（第一次） |
| 3月中旬 | 応募者参加諾否 | 応募者参加諾否（第一次） |
| 3月末 | 会員決定通知発送 | 会員決定（第一次締切後）通知発送・ |
| 4月初旬 | 次期分科会名簿確定 | 次期分科会名簿（第一次）確定 |
| 4月中旬 | | 応募締切（最終） |
| 4月下旬 | | 応募者参加諾否（最終） |
| 4月末 | | 会員決定（最終）通知発送 |
| 5月初旬 | | 次期分科会名簿（最終）確定 |

6. 研究分科会の広報について

研究分科会では、研究部が確保したサーバー上に各分科会の申請により領域を割り当てられ、それぞれでHPを作成する、という広報活動が主であった。

この度の2013年度研修分科会更新より、研究分科会の活動状況をとりまとめ広報紙として同封することとした。これは、研究成果そのものが広報の内容ともなる研究報告会や、各分科会のHPでの分科会活動の紹介に続く次の広報の手段となるとともに、毎年定例的広報の発信として位置づけることができるだろう。

さらには、2年おきに行われる研究分科会更新期間以外にも、途中入会のきっかけとなることを想定している。各研究分科会にはこれに合わせて途中入会希望者への手続きなどを整えてもらっている。ただし、会期中での入会を受け入れるかどうかは各分科会に任されることに変更はない。

《研究講演会》

私立大学図書館協会 2012 年度東地区部会研究講演会

日 時：2012 年 6 月 8 日（金） 14：00～16：00（受付開始 13：00）

会 場：東海大学 高輪キャンパス 2 号館 2B101（大講義室）

参加者：123 大学 227 名

司会者（研究部運営委員）青山学院大学 伊藤 義裕

1. 開会の辞
2. 挨拶 研究部担当理事校
東京農業大学図書館長 友田 清彦
3. 講演題目 『デジタル情報時代の図書館の役割 知識インフラの構築に向けて 』
4. 講 師 国立国会図書館長 前東京農業大学教授 大滝 則忠
5. 閉会の辞

※講義のレジメは、「私立大学図書館協会会報」140号に記載予定。

《研究会（交流会）》

2012 年度研究会（交流会）

日 時：2012 年 11 月 16 日（金）14：30～17：30（受付 14：00）

会 場：専修大学 120 年記念館（9 号館）2 階 92A 会議室

参加者：44 大学 67 名

司会者 （研究部運営委員）明治学院大学 萩原 昌幸

1. 開会の辞

2. 挨拶 東京農業大学図書館館長 友田 清彦

3. 講演 14:40～15:50

演 題 大学図書館と共に拓く学術情報基盤の新たな地平
～国立情報学研究所のコンテンツ事業の新展開～

4. 講師 国立情報学研究所 学術基盤推進部次長 尾城 孝一

5. 休憩 15:55～16:05

6. 研究分科会活動中間報告 16:05～17:20

①分類研究分科会 16:05～16:15

②パブリック・サービス研究分科会 16:15～16:25

③西洋古版本研究分科会 16:25～16:35

④企画広報研究分科会 16:35～16:45

⑤和漢古典籍研究分科会 16:45～16:55

⑥L ラーニング`学習支援システム研究分科会 16:55～17:05

⑦研修分科会 17:05～17:15

質疑応答

7. 閉会の辞 17:30

8. 意見交換会 17:40～19：00

会 場 120 年記念館（9 号館）5 階「CABIN」

開会挨拶 専修大学図書館部長代理 平野 光男

乾 杯 パブリック・サービス研究分科会代表 太田 優未

意見交換

閉会挨拶 東京農業大学図書館長 友田 清彦

閉 会

※講義のレジメは、「私立大学図書館協会会報」140号に記載予定。

《 研 修 会 》

2012年度 研修会

期 日：2012年11月29日（木）・30日（金）

会 場：中央大学後楽園キャンパス3号館 10階 31008大会議室

テーマ：震災に学び、震災に備える

参加者：72大学77名

開催趣旨

2011年3月11日に起きた東日本大震災は日本中を震撼させ、図書館にも大きな被害をもたらしました。以来、「今、図書館は何をすればよいだろう。次に地震が起きたらどのように対処すればよいだろう」という問いかけを続けながら、その答えをまだ見出せずにいる方も多いことと思います。

そこで今年度はこの研修会を、震災と図書館に向きあう機会にしたいと考えました。まず1日目は東北地方の図書館で震災を経験、またはその復興にご尽力されている方々を3名お迎えし、自らのご経験をお話いただきます。そして2日目は、saveMLAK*のご協力によるワークショップを行います。私たちの職場である大学図書館で大地震が起きた事を仮定したシミュレーション、グループ討議を経て、震災時の対応計画書をまとめます。

この研修会を通じて、今後の震災に向けて今考えられる最善の策を、私立大学図書館間で共有することを期待しています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

プログラム

第1日 11月29日（木）

*受付 9:45～10:15

*挨拶・オリエンテーション 10:15～10:30

会場担当校挨拶 中央大学図書館長 見市 雅俊
研修委員長挨拶 慶應義塾大学三田メディアセンター主任 山田 雅子

*基調講演 10:30～12:00

「図書館の復興支援と大学の役割」

東海大学工学部建築学科 教授

3.11生活復興支援プロジェクトアドバイザー 杉本 洋文

〈昼休み〉 ※図書館見学自由 12:00～13:30

*講演 13:30～15:00
「そのとき私たちができたこと 東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災」
一橋大学学術・図書部学術情報課長
(前・東北大学附属図書館情報サービス課長) 小陳 左和子

〈休憩〉 15:00～15:30

*講演 15:30～17:00
「東日本大震災からの復旧過程で考えたこと、感じたこと
東北学院大学図書館の経験を基に」
東北学院大学中央図書館 佐藤 恵

*懇親会 (中央大学後楽園キャンパス5号館地下食堂) 17:20～18:50

第2日 11月30日(金)

*ワークショップ 9:30～17:00
「大震災発生 そのとき図書館は？」 saveMLAK 岡本 真 他数名

- (1) 勤務館が大震災に遭遇したと仮定したシミュレーション演習 (9:30～11:30)
防災分野における図上演習の手法等に基づき、震災発生時から安全管理、開館再開まで流れを発生時の声掛けや避難誘導から、人員捜索、倒壊書架の安全確認・復旧までを体験型のワークショップで実際に経験します。

〈昼休み〉 ※図書館見学自由 (11:30～12:45)

- (2) シミュレーション演習に基づく反省点の洗い出しと対策の検討 (12:45～14:45)
体験型ワークショップの結果を振り返りながら、災害時の対応における過不足を洗い出し、発生時に本来とるべき行動、あるいは事前に備えておくべき事項を明らかにします。

〈休憩〉 (14:45～15:00)

- (3)BCP (事業継続計画) の作成ブレインストーミング (15:00～17:00)

(1)、(2)の結果を踏まえ、ブレインライティングストーミングの手法を用いながら、図書館における事業継続計画（BCP）をつくる上で盛り込むべき内容を抽出し、事業継続計画の素案を作成します。

*まとめとアンケート

17:00～17:15

ポスター展示 研修会場にて

1. 東北大学附属図書館 写真展示 震災の図書館を振り返る
2. 共有しませんか？震災に学んだこと 情報交流のためのポスター展示

2012年度 私立大学図書館協会東部地区研修会
図書館の復興支援と大学の役割

2012・11・29

東海大学工学部建築学科教授
3.11生活復興支援プロジェクトアドバイザー

杉本洋文



多発する地震災害

日本は、地球上の8割の
地震が発生している！

日本は、各地で多くの地震災害が発生している。
近年の主要な地震災害でも下記の通りである。

- 1993年 北海道南西沖地震
- 1995年 阪神淡路大震災
- 2000年 鳥取県西部地震
- 2004年 新潟県中越地震
- 2007年 能登半島沖地震
- 2011年 東日本大震災（地球規模で第2位）
長野県北部



どんぐりハウスの誕生の背景

どんぐりハウスの誕生した
背景と経緯とは！

どんぐりは、森の地下で眠っている。
そして、自然に発生する森林火災で、森が消失すると、
日が当たり、芽をだして、森を再生させる。
その力強さにあやかって名前をつけた。



日本は森林国家です！

国土の

約66%

が森林です！

フィンランド、スウェーデン
に続き世界第3位です。

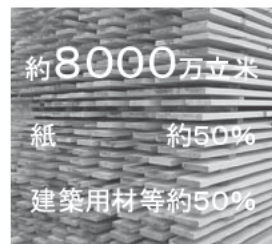
森で育つ木材量は使用量と同じ！

木材生育量（1年間）

木材使用量（1年間）



約8000万立米



約8000万立米

紙 約50%

建築用材等約50%

日本は木材の輸入大国です！

日本は、世界から安価な木材を、国内で利用する約73,4%以上を輸入しています。



国内の木材利用が少ないために、
林業が衰退し、
森の環境が壊れている。

日本は世界に誇るべき 木造建築の国です！

法隆寺五重塔



世界最古の木造建築

東大寺大仏殿



世界最大級の木造建築

木造建築は、 サステナブル（持続可能）な建築です！

資源循環型建築

* 伊勢神宮（木造建築）



* 錦帯橋（木造橋）



20年に1度の遷宮！
日本が誇る持続可能な永続性を備えた知恵です。

* 森を育て！
次世代の森を育てる

* 技を伝え！
20年サイクルで大工の技術を次世代へ伝える

* 木の文化を引き継ぐ！
木の文化は、同じものを作り替えられる技術によって、永遠に文化を伝える。

公共建築を木造で作る時代へ！

平成22年5月26日公布

公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律



森林国家の応急仮設建築の現状

日本は森林国家なのに、 何故、応急仮設建築が 木造で建たないのか！

- 日本は、国土に占める森林の割合が約7割の世界第3位の森林国家です。
- 毎年の森林生育量は、私たちが使っている木材量と同じである。
- 災害における応急仮設住宅建設は、厚生労働省の災害救助法によって行われている。
- 各県は、平常時から日本プレハブ建築協会と契約が行われている。
- したがって、他の構法の仮設住宅は準備されておらず、建設されてこなかった。

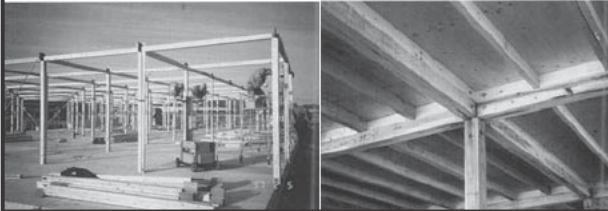


阪神淡路大震災1995



仮設建築システム
夢みなと博1997
管理施設（住宅・公共施設用）

会期前に阪神淡路大震災が発生した。そこで、仮設木造建築システムを開発する機会とした。そして、災害時の応急住宅・公共施設の供給を目指したのだが、その後の災害では活かされなかった。



2004年10月23日 新潟県中越大地震発生！



新潟県中越地震2004
応急仮設住宅
(4.5帖)を
8棟建設

小田原の森林・林業関係者と 結に、杉と合板パネルで制作し、小田原市の支援を受けながら、ボランティアで建設した。



小田原防災訓練展示
応急仮設住宅建設 2005
4トントラック1台にワンユニット搭載、
建設2時間程度

小田原市の防災訓練で、解体した、応急住宅モデルを展示し、木造の応急仮設住宅の必要性を訴えた。



東海大学チャレンジセンター



平成18年度文部科学省
現代教育ニーズ支援プロジェクト 採択
東海大学USR型モデルの創出・実践
多様なヒューマンリソースをマッチングして
実践する地域活性化プロジェクト

目標: 集い力、挑み力、成し遂げ力の育成

実践: チャレンジプロジェクト
ものづくりやボランティア、地域活性といった活動を、
学部の枠を超えた仲間と 一緒に実践してゆく中で
成長していきます。

*平成20年度ピ テラライフ創生プロジェクト誕生!

理論: チャレンジセンター科目
気づきを促す演習を盛り込んだ授業で、楽しみながら問題の解決方法を身につけていきます。



ビーチハウスプロジェクトの経験

木造建築による災害支援活動を、
日ごろから体験し、経験を蓄積
することが重要である。

東海大学工学部建築学科では、1年生の設計課題で、ビーチハウスを取り上げ、翌年の2006年に「ビーチハウスプロジェクト」を立ち上げ、東海大学チャレンジセンターの特別プロジェクトで実施された。

このプロジェクトは、国産材を使った応急仮設建築システムを視野に入れて、そのノウハウの蓄積と活動の継続性を目指していた。同時に、大学の地域貢献（USR）を目標とした。

3.11 Life Care Project
生活復興支援

発足の経緯 砂浜の拠点と地域活性化

地域活性化を目的として学生が建設したビーチハウス

HIRATSUKA Beach House Project
7月から9月までの期間に学生が建設から解体までを行い、8月にはワークショップを中心としたイベントを開催。ビーチハウスを拠点とした「地域活性化」を目的とする。

2007年 はがされた砂浜 2008年 海へ続く階段

2009年 海の緑側 2010年 サンゴドーム

3.11 Life Care Project
生活復興支援

発足の経緯 砂浜の拠点と地域活性化

ビーチハウスでのワークショップ

USRビーチライフ創世プロジェクト2008
～砂浜の図書館～横浜市海の公園砂浜

秋のビーチで読書をテーマにした新たなライフスタイルを提案する

USRビーチライフ創世プロジェクト2009
～砂浜の図書館～横浜市海の公園砂浜～

2011年3月11日
東日本大震災発生

3.11 Life Care Project
生活復興支援

3.11生活復興支援プロジェクトは4月1日、正式にスタート!

3.11 Life Care Project
生活復興支援
Emergency House Life Media Community Care

私たちの活動は、震災の翌日から開始され、ビーチハウスプロジェクトのノウハウを生かして、国産材の木材で東北支援を自分たちの手で実施することを決意した！そして、初動期が最も重要であることは分かっていたので、どんぐりハウス（旧応急住宅）チームを立ち上げ、活動を開始した！それが、東北へ、早期に木造の仮設公共施設を実現することができた。



活動理念

持続可能な復興支援

地域に根付いた復興支援を提言・提案・実践
「人」との繋がりを重視

総合大学ならではの支援

多様なネットワークや専門分野を活かした活動
USR（大学の社会的責任）に向けた取り組み

支援計画

| 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 |
|-------------------|----------------------------|-----------------|--------------|
| ～1ヵ月 緊急・援助期 | ～半年 復旧準備期 | ～3年 復旧期 | ～10年 復興期 |
| 命を守ることが最優先 | 生存できる環境は確立 | 最低限の生活環境が整う | 生活水準を上げる |
| 避難所 | 応急住宅 | 仮設住宅 | 般住宅の建設 |
| 衣・食・住の情報 | 地域情報、安否確認、確実な情報の整理が必要 | 就職情報、住宅情報 | メディアセンター |
| 間仕切り、避難所の増設、ラジオ体操 | スポーツ大会やイベントの開催、ストレス発散の場が必要 | メンタルケア、クラブ活動、教育 | 介護、習題、メンタルケア |

組織体制と活動内容

| | |
|----------|--|
| 応急住宅 | ウッドブロックによる応急仮設建築物「どんぐりハウス」の提案と建設作業、技術提供 ソーラパネルやハイオトイレを用いた自立型設備システムの採用 |
| ライフメディア | 被災地の復興記録を子どもたちの手で行う、「夏休みこどもテレビ局」を企画 |
| コミュニティケア | 被災地のニーズを最優先に、「集い」をテーマとしたイベント企画の実施 公民館・集会所として建設された「どんぐりハウス」を拠点としたイベント企画の実施 ・「どんぐり募金」の実施 |

組織体制と活動内容

3.11 生活復興支援

```

    graph TD
      A[プロデュースチーム] --> B[応急住宅チーム]
      A --> C[ライフメディアチーム]
      A --> D[コミュニティケアチーム]
  
```

プロデュースチーム
 (教職員)
 総合教員：大塚 望
 アドバイザー：杉本 洋文
 ：木村 英尚
 ：梶井 龍太郎
 ：五藤 正海
 コーディネーター：渡辺 浩典
 (学生)
 リーダー：下田 悠祐
 広報責任者：山内 昇
 会計責任者：中澤 亨

応急住宅チーム
 リーダー：渡辺 光太郎

ライフメディアチーム
 リーダー：松原 有輝

コミュニティケアチーム
 リーダー：佐藤 由紀
 基金担当：中嶋 昌彦

「どんぐりハウス」開発 ウッドブロックシステムの採用

3.11 生活復興支援

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

東北の合板工場の被災によって合板パネルが手に入られなくなる。間伐材を使った建築システムの模索と開発

3.11 生活復興支援

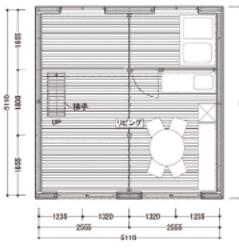
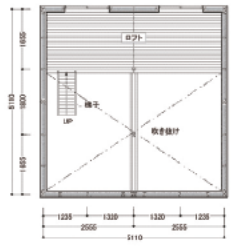
主な用途: 公民館・集会場
 敷地面積: 302.46㎡
 建築面積: 26.11㎡ (ロフト: 8.5㎡)
 延床面積: 26.11㎡

構造: 木造 (ヒノキ間伐材)
 工法: ウッドブロック工法




内観 ロフトから

3.11 生活復興支援

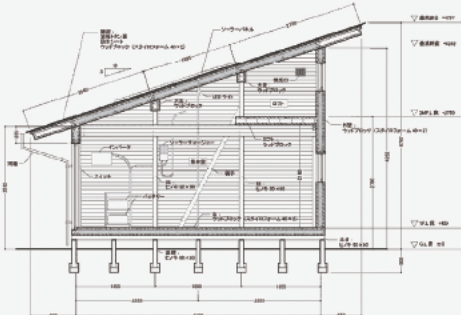
1100 1000 1000 1000 1100
 1234 1320 1320 1234 2558
 5110

1100 1000 1000 1100
 1234 1320 1320 1234 2558
 5110

ロフト
 階段
 UP
 吹き抜け
 吹き抜け

N

3.11 生活復興支援



3.11 生活復興支援





3.11 生活復興支援

3.11 生活復興支援





3.11 生活復興支援

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月


応急住宅 ライフメディア コミュニティケア

1棟目「泊地区公民館」建設（岩手県大船渡市）

- ・東海大学のOBの方から、大船渡市のニーズを入手した
- ・応急住宅ではなく、「公民館」として建設



建設地



公民館が流され、元牛舎の外が拠点。屋外で会議を行う。

3.11 生活復興支援

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア

ウッドブロック加工組み立て（岐阜県揖斐川町）




3.11 生活復興支援

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア



3.11 生活復興支援

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア



3.11 生活復興支援

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア



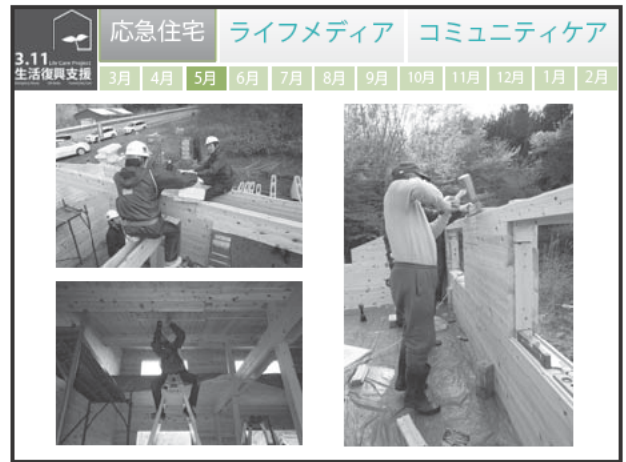
3.11 生活復興支援

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア



泊地区公民館





3.11 生活復興支援

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

ロハスデザイン大賞2011 2011.05.16.~05.23.

3.11 生活復興支援

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

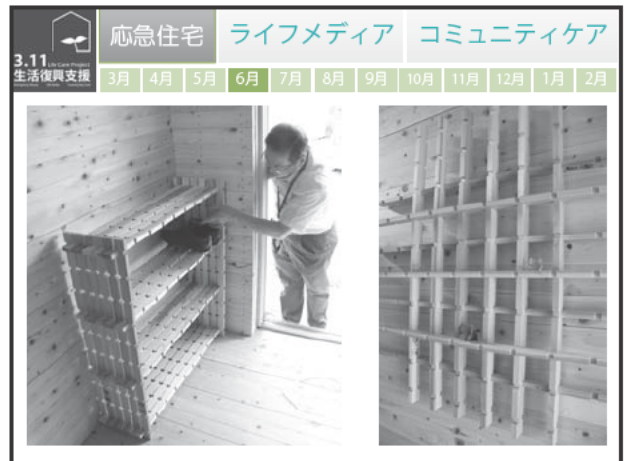
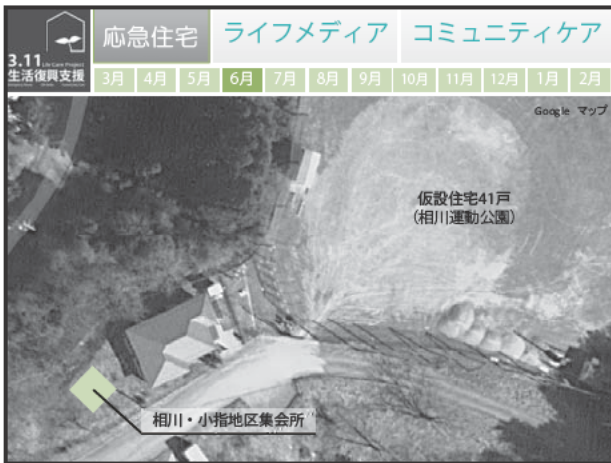
LDA2011 発表・授与式 2011.06.06.
「ロハスデザイン大賞2011」コト部門 最優秀賞受賞

3.11 生活復興支援

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

2棟目「相川・小指地区集会所」建設（宮城県石巻市）
・知り合ったことから、石巻市のニーズを入手
・集会所として建設





3.11 生活復興支援

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

「相川・小指地区集会所」完成式 (6月24日)

3.11 生活復興支援

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

3.11 生活復興支援

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

3.11 生活復興支援

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

「夏休みこどもテレビ局」の実施
子どもたちの目線で映像メッセージを発信

3.11 生活復興支援

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月



「つながる支援」 大船渡市

- ・「人とのつながり」を重視し、ニーズに沿った支援活動を実施。
- ・小学校の図書室の整理や、「泊地区公民館」の掲示板や花壇を作成した。

3.11 生活復興支援

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月



3.11生活復興支援プロジェクトシンポジウム

東日本大震災からの復興と大学の役割

- ・大船渡市からは平田ミイ子氏、石巻市からは佐々木文彦氏をパネリストとして招待。
- ・これまでの活動を振り返り、被災地における現状の課題、大学が果たす役割と今後の展望などについて意見を交わした。

3.11 生活復興支援

応急住宅 ライフメディア コミュニティケア

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月



「つながる支援」 石巻市

- ・地域の伝統行事「春祈禱」の実施に合わせて交流活動を企画。
- ・大鳳と小鳳の製作、神奈川と宮城の郷土料理づくりなどの企画を実施。

東海大学デザインセンター

3.11 生活復興支援プロジェクト

名取市図書館 **どんぐり** 子ども図書室

1. 建設までの経緯
2. 施設の特徴
3. 施設の利用状況

新岡 浩大 * 正会員
 狩野 純太 * 正会員
 榎岡 俊 * 正会員
 榎野 慎介 * 正会員
 下田 奈祐 * 正会員
 山内 昇 * 正会員
 渡邊光太郎 * 正会員
 松本 洋文 * 正会員

東海大学大学院工学研究科建築学専攻 修士課程
 **東海大学大学院工学研究科建築学 教授(※設計指導)

建築デザイン協会 [B01] 14059 名取市どんぐり子ども図書室

1. 建設までの経緯



被災した図書館について



被災した名取市図書館

所在地：宮城県名取市増田 1-7-37

1958年 名取市市役所として竣工
 1976年 旧市役所庁舎を図書館に転用し開館
 1995年 図書館改修工事
 2011年 東日本大震災により建物に甚大な被害

建物被害の原因：地震による揺れ
 被災時の築年数：築53年
 構造規模：RC造2階建て
 延床面積：996㎡



内部の被害状況

被災後の図書館の動向



書庫を利用した図書室

2011年05月 書庫1棟および移動図書室1台により図書館業務を再開
 2011年10月 20坪のプレハブ図書室を建設
 移動図書室1台を追加（計2台）
 2011年01月 どんぐり子供図書館オープン



移動図書室



20坪のプレハブ図書室



saveMLAK



3.11 Life Care Project
 生活復興支援
 東洋大学ナレッジセンター

ウッドブロック工法

いつでも！
 だれでも！
 簡単に！

- ・地元住民と共同できる簡易施工システム
- ・地元業者の活性化
- ・木材自給率の向上へ



ウッドブロック工法の開発・検討



どんぐりハウスの建設実績



地元住民と共同で施工し一週間で完成

2. 施設の特徴

どんぐり子ども図書室 建築概要



北側外観

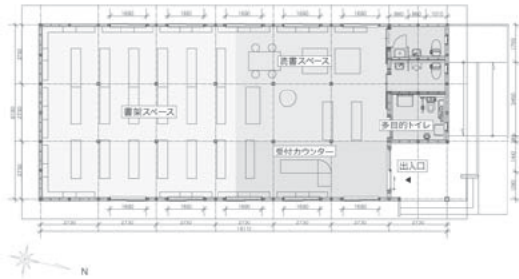


西側外観

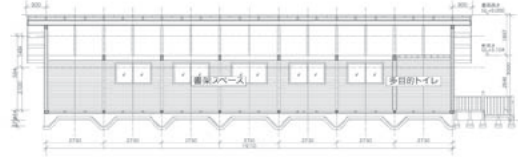
開館：2012年1月6日
 主用途：図書館
 構造：木造（スギ、ヒノキ間伐材）
 工法：ウッドブロック工法
 敷地面積：3,095.04㎡
 建築面積：156.51㎡
 延床面積：149.06㎡

使用した木材量
 ヒノキ丸太：90.0㎥（90角製材：43.8㎥）
 概算の間伐面積：3ha

平面図



断面図



広くても暖かい書架スペース

蔵書数：約2万冊（絵本や児童書中心）
 本棚：東北のスギ材を用いた組手什 計44台

ビクトサイン、下足箱、スリッパ入れまで
 残材を利用するなど、木を余すことなく使用

どんぐり子ども図書館 西側外観

エントランスより図書室を臨む

木にこだわったビクトサインの例

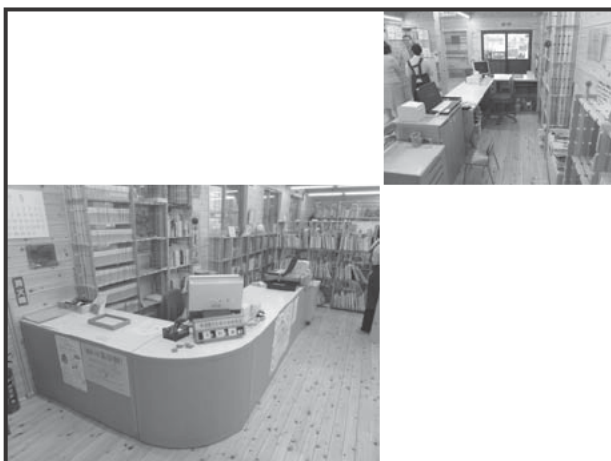
内装整備ボランティア

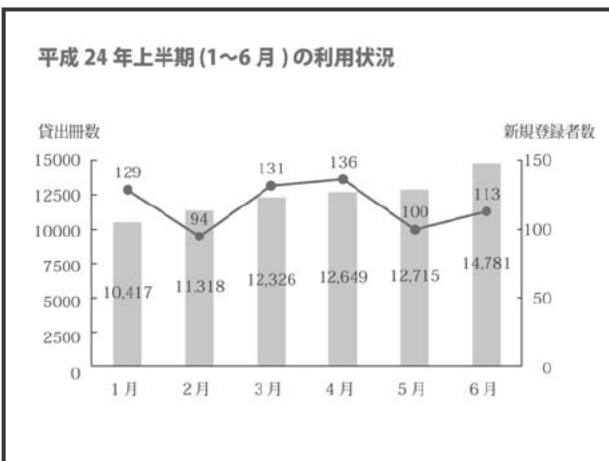
3.11 生活復興支援プロジェクトでも
 組手什の組み立てや絵本の陳列など
 竣工後の図書室環境整備をサポート

組手什（本棚）組み立て風景

絵本の陳列

木口のヤスリがけ





出会いを生む図書室

8月22日
県内大学の学生、計11名が図書館にインターンシップとして来館。学生達がおススメの本の「ポップ」を制作し、それぞれの本と一緒に掲示している。

大学生による本の紹介

8月24日
日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャン氏による絵本の読み聞かせが行われる。

アグネス・チャン氏による絵本の読み聞かせ



人と人をつなぐ図書室

子どもに大人気の水ヨーヨーつり



恒例となっている七夕飾りを今年は
どんぐり子ども図書室で盛大に開催
※昨年は移動図書館車の車庫で開催
思い思いの願いを下げて…



「どんぐり・アンプロジェクト2012」
Donguri Ann Public Library



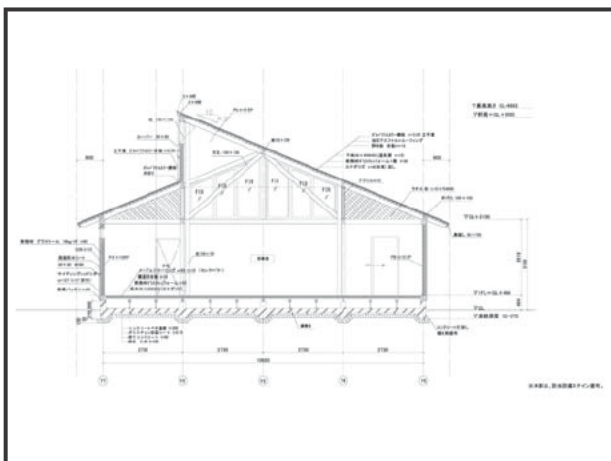
2012年12月、名取市図書館
「どんぐり・アンみんなの図書室」
2013年1月19日 開館予定

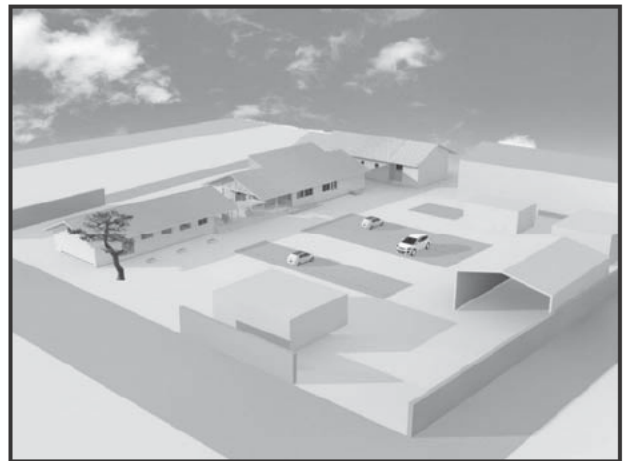
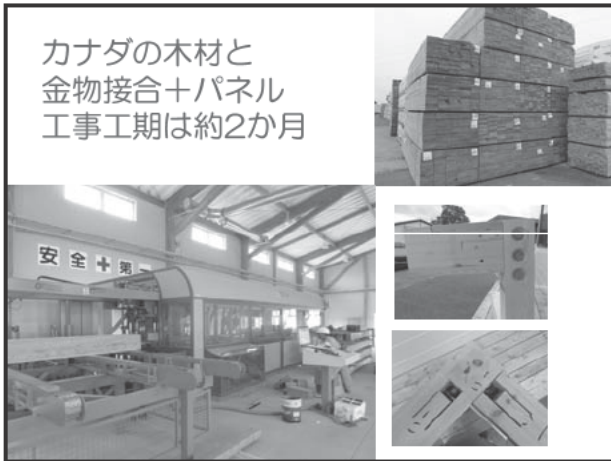


子ども図書室 みんなの図書室 読架書庫



建築概要
 主要用途 図書館 木材 カナダ産ツガ
 構造 木造平屋建て
 建築床面積 234.38㎡
 延べ面積 239.48㎡





3.11 生活復興支援

復興で大切にすべき視点

突然発生し、絶対回避できない
地震災害に対して、何をなすべきか？

基本視点

視点1 復興から住み続けられることができる
まち・地域をつくる。

視点2 災害の教訓と地域の絆を生かし、
自然と共生した災害に強いまち・地域づくり。

視点3 「まち」と「個人」の再建を同時に進める。
～自助・共助・公助の総合的な視点から～

プロセスを考える

知ろう 地域の魅力・資産・価値を発見・発信する。
つくろう 地域の価値・資産の質と能力を高める。
つなごう 持続可能な復興まちづくりの礎を築く。

3.11 生活復興支援

復興まちづくりのロードマップ

ロードマップ

| 活動期 | 計画期 | 運動期 | 復興期 | 持続期 |
|------|---------------------|------------|------------|------------|
| 知ろう | 地域の魅力・資産・価値を発見・発信する | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 |
| | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 |
| | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 |
| | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 |
| つくろう | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 |
| | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 |
| | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 |
| | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 |
| つなごう | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 |
| | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 |
| | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 |
| | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 | 被災者の生活再建支援 |

3.11 生活復興支援

高台移転計画の支援活動

2012年4月～
「高台移転に向けたワークショップ」の実施
どんぐりハウスで未来のみんなの家を考える

3.11 生活復興支援

泊区復興まちづくり会議（9回）

住民とUDMと一緒に
会議を立ち上げ、復興まちづくりの高台移転計画を学生と一緒に作成し、提案している。

提案CONCEPT『泊桃源郷』

3.11 生活復興支援

泊区13戸の高台移転計画モデル

3.11 生活復興支援

まちづくりルールを作成して 宅地と建築の 体整備を推進する

泊展@京橋ものがたり館 2012・10

NPOアーバンデザイン研究体+東海大学チャレンジセンター

3.11 生活復興支援

被災地における大学図書館の役割

- 短期的
 - 収集 被災地と各種図書館の被害状況の把握
 - 仕組み 即応性、柔軟性のある支援体制づくり
 - 支援 学内活動と連携して、被災地のニーズを把握し、支援活動の立案
- 長期的
 - 収集 学内災害支援活動の把握、記録集の作成
 - 研究 学内研究の把握、災害学・復興学の研究
 - 発信 防災・減災・避災の知恵の結集・発信
 - 交流 大学図書館相互の災害情報ネットワーク



3・11生活復興支援プロジェクトの 報告書を兼ねた本を出版。

つながる、ひろがる、学生のチカラ
東海大学生たちが、
東日本大震災の被災地で
復興支援活動を展開している。
彼らが目指す
「持続可能な復興支援」とは？

NPOアーバンデザイン研究体は、
被災地の復興に必要なまちづくり
の知恵を集め、
「復興まちづくりの知恵袋」を
出版した。



そのとき私たちができたこと

- 東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災 -

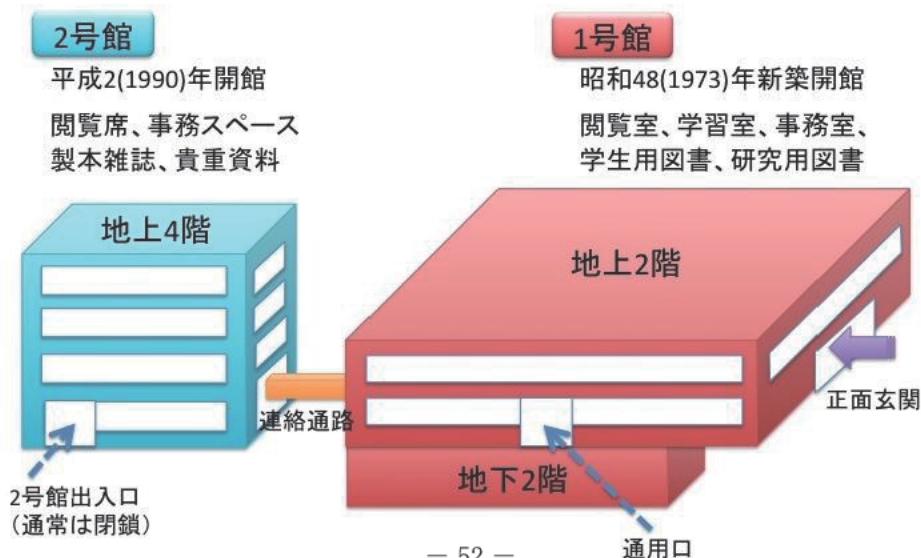
一橋大学附属図書館 学術情報課長
 (前・東北大学附属図書館情報サービス課長)
 こじん さわこ
 小陳 左和子

1. これまでの主な地震 (宮城県)

※ 震度は仙台市青葉区観測

| | | | |
|--------------------------------|-----------|-------------|---------|
| 869(貞観 11)年 7 月 9 日 | 貞観地震・津波 | M8.3 以上 | |
| ⋮ | ⋮ | ⋮ | |
| 1611(慶長 16)年 12 月 2 日(金) | 慶長三陸地震・津波 | M8.1 最大震度 5 | |
| ⋮ | ⋮ | ⋮ | |
| 1896(明治 29)年 6 月 15 日(月) 19:32 | 明治三陸地震・津波 | M8.2 最大震度 4 | |
| ⋮ | ⋮ | ⋮ | |
| 1933(昭和 8)年 3 月 3 日(金) 2:30 | 昭和三陸地震・津波 | M8.1 最大震度 5 | |
| ⋮ | ⋮ | ⋮ | |
| 1978(昭和 53)年 6 月 12 日(月) 17:14 | 宮城県沖地震 | M7.4 震度 5 | |
| ⋮ | ⋮ | ⋮ | |
| 1998(平成 10)年 9 月 15 日(火) 16:24 | 宮城県南部地震 | M5.2 震度 4 | |
| 2003(平成 15)年 5 月 26 日(月) 18:24 | 三陸南地震 | M7.0 震度 5 弱 | |
| 2003(平成 15)年 7 月 26 日(土) 7:13 | 宮城県北部地震 | M6.2 震度 4 | |
| 2005(平成 17)年 8 月 16 日(火) 11:46 | 宮城地震 | M7.2 震度 4 | |
| 2008(平成 20)年 6 月 14 日(土) 8:43 | 岩手・宮城内陸地震 | M7.2 震度 5 弱 | |
| 2010(平成 22)年 6 月 13 日(日) 12:33 | 福島県沖 | M6.2 震度 4 | |
| 2011(平成 23)年 3 月 9 日(水) 11:45 | 三陸沖 | M7.3 震度 3 | ← 2 日前 |
| 2011(平成 23)年 3 月 11 日(金) 14:46 | 東日本大震災 | M9.0 震度 6 弱 | ◆ 当日 |
| 2011(平成 23)年 4 月 7 日(木) 23:32 | 宮城県沖 | M7.4 震度 6 弱 | ← 27 日後 |

2. 図書館の建物の構成



3. 通常の開館・利用状況

- 開館時間

| | |
|--------|----------------------------------|
| 平日 | 8:00 ~ 22:00 |
| 土・日・祝日 | 10:00 ~ 22:00 (試験期は8:00 ~ 22:00) |
| 年間休館日 | 13日 (年末年始、お盆、法定停電日のみ) |
- 利用者数

| | |
|-----------|----------------------------------|
| 入館者数 | 年間 68 万人 |
| | 1日平均 (通常期) 平日 2,500人 / 休日 1,200人 |
| 在館者数 (日中) | 300人 (通常期) ~ 700人 (試験期) |
- 職員数 (常勤+非常勤) 60名前後

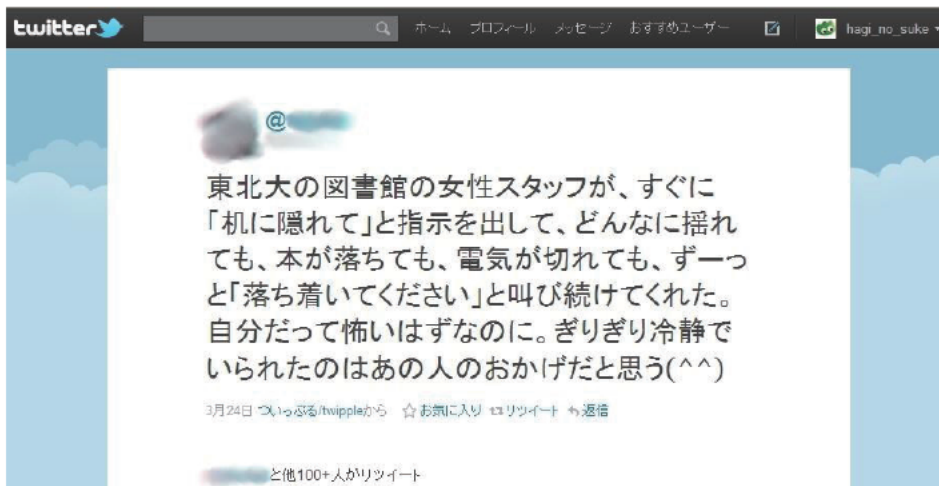
年間の有人開館時間数は
国立大学トップ

地震発生時の推定在館者数
約 180人 (休業期)

4. 当日の状況

| | |
|-------|---|
| 14:46 | 地震発生 (本震は約3分間) 全館停電、非常灯のみ点灯 発生時点で館内にいたのは、利用者 180名+職員 60名 240名程度 職員が利用者に「落ち着いてください」「書架から離れてください」「机の下に入ってください」と大声で連呼 |
| 14:49 | 揺れが収まった頃、利用者を館外へ避難誘導 職員が手分けして各フロアの状況を確認 利用者・職員は正面玄関前の広場へ集合 |
| 15:10 | 荷物を持たずに避難した利用者に、荷物を取りに入館してもらう (大きな余震が頻発していたため、危険なときには避難しやすいように、拡声器で呼びかけて10名程度ずつに分け、職員が引率して入館) |
| 15:40 | 利用者の荷物取り出し終了 |
| 15:45 | 全館無人になったことを再度確認、持ち主が現れず残っていた荷物を搬出 余震が続いており、広場に残っていた利用者に、明るいうちに帰るように促す 長時間通勤、幼児・要介護者のいる職員、非常勤職員に帰宅指示 (雪が降り始める) |
| 16:00 | 残った職員で今後の行動を協議し、翌土日は出勤しないこと、月曜は可能な限り出勤することを確認し、解散 |
| 16:30 | 正面玄関に臨時休館の貼り紙をして施錠 |

ある利用者の Twitter より



5. 被害状況

5.1 附属図書館（本館）

| | | |
|--------|----------------------|---------------|
| 人的被害 | なし | |
| 施設・設備 | 壁・天井の破損・落下多数 | → 立入禁止区域 |
| | 窓枠ゆがみ | → 開閉不可 |
| | 空調機パイプ破損 | → 水漏れ、冷暖房運転不能 |
| | エレベータ1基損壊 | → 運転不能 |
| 書架 | 一部ゆがみ等の破損 | → 要・補修 |
| 蔵書 | 約 87万冊落下（225万冊中） | → 要・整理 |
| | 一部破損（含・貴重図書） | → 要・修復 |
| PC 機器等 | 利用者用・業務用 PC ・サーバ破損なし | |
| | 共有ファイルサーバのディスク故障 | → 要・修復 |

5.2 東北大学全体

| | |
|---------|-------------------------|
| 人的被害 | 学生 3 名死亡（学外で津波被災） |
| 建物 | ×危険 28 棟（4.7%） |
| | △要注意 48 棟（8.2%） |
| | ○安全 521 棟（87.1%） |
| | 建替・改修等で448 億円の損害 |
| 研究機器 | 352 億円の被害 |
| 実験・研究材料 | 生物系の研究室で、多くの貴重な細胞・資料の損失 |



【学生用開架図書】



【製本雑誌書架】



【貴重書庫】



【マイクロ資料室】

【北青葉山分館】



【壁・天井の破損(コンクリート塊の落下)】



【窓枠の歪み(開閉不能)】

6. 震災後の経緯

6.1 復旧作業・サービス再開の経緯

| 2011 年 | 復旧作業 | サービス | 周辺状況 |
|---------|---------------------------------|---|---|
| 3/11(金) | | ・3/14(月)までの臨時休館を仮決定 | ・電気・水道・ガス停止 ・携帯電話・メール不通 ・大学メールサーバ停止 |
| 3/12(土) | | ・wikiを用いたsavelibraryに館内の情報を入力 | ・savelibrary(saveMLAKの前身)始動 |
| 3/14(月) | ・被害状況調査・写真撮影 ・事務室内の簡易な片付け | ・当分の間の臨時休館を仮決定 ・図書館公式Twitterアカウントの運用開始 | ・食料・ガソリン等入手困難 ・暖房運転不能(設備損壊) ・大学メールサーバ復旧 ・図書館災害対策本部設置 |
| 3/15(火) | ・照明不要な範囲での落下資料片付け | ・段階的なサービス再開の検討を開始 | ・建物危険度判定「使用可」 ・午後 電気復旧 |
| 3/16(水) | ・開架エリアの整理開始 | | ・午後 水道復旧 |
| 3/22(火) | | ・職員通用口で資料返却の受付開始 | |
| 3/24(木) | | | ・東北自動車道の一般車両通行止め解除 |
| 3/25(金) | | | ・学位記授与式中止 ・大学の2011年度年間授業スケジュールが決定 |
| 3/29(火) | ・開架エリア配架終了 ・電動集密書架の動作確認・整理開始 | ・授業スケジュールに応じた具体的なサービス再開スケジュールを検討 | |
| 3/30(水) | ・地下書庫の整理開始 ・製本雑誌の整理開始 | | |
| 3/31(木) | ・学生ボランティア組織“HARU”が作業参加開始 | | |
| 4/ 6(水) | | | ・入学式1か月延期 ・生活物資・ガソリン等の入手状況が徐々に回復 |
| 4/ 7(木) | | | ・saveMLAK 始動(再編成) ・23:32 震度 6 弱の地震 |
| 4/ 8(金) | ・(前夜の地震による)開架エリア落下図書配架終了 | | |
| 4/11(月) | ・書架への紐張り作業開始 | [平日9-17のみ] ・エントランスホール開室 | |
| 4/13(水) | | | ・仙台空港暫定再開 |
| 4/14(木) | | | ・午後ガス復旧 |
| 4/25(月) | ・地下書庫の配架終了 | [平日9-17のみ] ・1号館(除・地下書庫)開館 | ・学部専門授業・大学院授業開始 |
| 4/29(金) | | | ・東北新幹線全線再開 ・仙台市地下鉄全線再開 |
| 5月-7月 | ・施設・設備の修繕工事(最優先案件に限定) | | |
| 5/ 2(月) | ・製本雑誌の暫定配架終了 | | ・第1次補正予算成立 |
| 5/ 6(金) | | | ・学部毎の入学式 |
| 5/ 9(月) | | [平日8-20 / 休日 10-20] ・時間外(短縮)開館(時間外は職員1名待機) | ・全学授業開始 ・研究棟損壊の教員が図書館の研究個室に入居 |

| | 復旧作業 | サービス | 周辺状況 |
|----------------------|---|--|--|
| 5/16(月) | | ・ 1・2 号館全館開館 ・ 他大学から ILL 受付再開 | |
| 5/30(月) | ・ 地下書庫に雨漏り発生(地震による建物損傷の影響) →全職員で資料移動作業 | ← | ・ 大雨(JR 在来線運休) |
| 6/ 1(水) | | [平日8-22 / 休日 10-22] ・ 通常時間での開館再開 (一部立入禁止エリアあり) | |
| 6/ 2(木) -3(金) | ・ 専門家ボランティアによる マイクロ資料調査・整理 | | |
| 6/ 9(木) | ・ HARU 作業 且休止 | | |
| 6/14(火) | ・ HARU へ感謝状贈呈 | ・ 図書館創立百周年記念日 (利用者へのイベント実施) | |
| 7/ 1(金) | | | ・ 電力削減期間開始 |
| 7/15(金) | | ・ 2011年度第 1 回避難訓練 (今後は年 4 回実施予定) | |
| 7/16(土) -17(日) | | | ・ 東北六魂祭 |
| 7/25(月) | | | ・ 第 2 次補正予算成立 ・ 仙台空港の国内線定期便 運航再開 |
| 7/26(火) | ・ 冷房運転開始(修理完了) | | |
| 7/27(水) -28(木) | | ・ オープンキャンパスで高校生 5,710名が図書館見学 | |
| 8/ 5(金) -8(月) | | | ・ 仙台七夕花火祭, 仙台七夕まつり |
| 9/23(金) | | | ・ 東北新幹線で通常ダイヤ 再開 |
| 10/ 7(金) -11/5(土) | | ・ 創立百周年記念企画展 「煌めきのコレクション」 | |
| 10/15(土) | | ・ 百周年記念式典・講演会 | |
| 10/31(月) | ・ HARU ボランティア再開 | | |
| 11/21(月) | | | ・ 第 3 次補正予算成立 |
| 11/25(金) | | ・ 第 2 回避難訓練 | |
| 12/16- 翌年 12/25 | ・ 破損した貴重書・ 般書の 修復 | | |

| 2012 年 | 復旧作業 | サービス | 周辺状況 |
|---------------------|--------------------------|---|-----------------------------|
| 1/11(水) | | | ・ 東日本大震災アーカイブ 国際合同シンポジウム |
| 2/ 1(水)- 3/16(金) | ・ 書架補修・補強工事 ・ 損壊什器の買替 | | |
| 2/24(金) | | ・ 第 3 回避難訓練 | |
| 3/ 6(火)- 5/30(水) | | ・ 写真展示「2011. 3. 11あの日から 年 - 震災の図書館を振り返る -」 | |
| 3/12(月) | | ・ 「震災ライブラリー」設置 | |
| 4 月-7 月 | ・ 施設・設備の修繕工事 | | |
| 5/27(日) | | | ・ 図書館総合展フォーラム 2012 in 仙台 |

6.2 復旧作業の様子



6.3 ボランティアによる支援

(1) 学生ボランティア組織：東北大学地域復興プロジェクト“HARU”

東北大学の学生が2011年3月24日に創設、まもなく大学公認の組織となる。

2011年5月時点では、約1,000名の学生が登録。

県内の被災地・避難所で活動するほか、附属図書館の復旧作業に参加。

附属図書館では、第一期2011年3月31日～6月9日(延べ約1,000名が参加)、

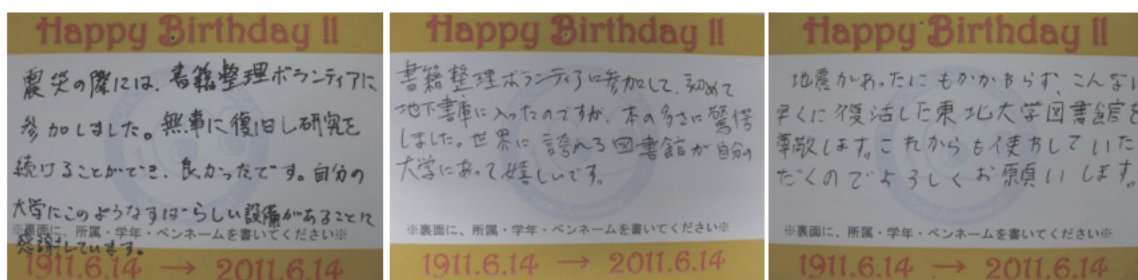
第二期2011年10月31日～継続中。

(2) マイクロ資料専門家ボランティア

2011年6月2日～3日の2日間、東京のマイクロ資料関連会社の社員有志9名が来館。

散乱したマイクロフィッシュ数万枚の整理、損傷したキャビネットの点検調査を実施。

saveMLAKの仲介(支援希望者と受援希望者のマッチング)により実現。



【創立百周年記念日の学生からのメッセージ(全515枚から抜粋)】

7. 地震への対策

7.1 耐震補強工事(2008 年度)



【FRPブロック耐震壁】
(ガラス繊維強化プラスチック)



【円形鋼管ブレース】

7.2 書架の補強(震災後)



【補強金具の取付】



【床への固定】
(従来は天つなぎのみ)



【背面ブレース】

7.3 防災用品



【拡声器】



【トランシーバー】



【懐中電灯・ランタン】



【ヘルメット】



【手回し充電式ラジオ】



【救急用品】



【担架・車椅子】



【ホイッスルなど】

7.4 利用者向け掲示(震災後)

図書館の利用に際してご協力をお願いします。

①揺れを感じたら、直ちに書棚から離れてください。

②状況に応じて職員が誘導しますので、指示に従ってください。

③最初の避難場所は正面入口前の広場です。

復旧ボランティアのみなさん、ありがとうございました。

| | | |
|------------|------|----|
| 震災直後の学生閲覧室 | 復旧作業 | 現在 |
|------------|------|----|

◆書架(復旧等の作業にあたっては、東北大学生によるボランティア組織「東北大学地域復興プロジェクト」[HARU]のみなさんに、3月31日から6月9日までの長きに亘り多大なるご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

◆施設・設備の補修・入替が必要なエリア、資料の整理が完了していないエリアは利用を制限させていただいております。たいへんご不便をおかけしますが、順次整備を進めてまいりますので、なにとぞご了承ください。

◆地震による落下防止のため、学生閲覧室の書棚に紐を張っており、多少使いづらくなっておりますが、資料はどうぞご利用ください。

【エントランスのポスター】



【書庫入口の掲示】

7.5 考えておきたいこと… 人的被害を出さないために

(1) 書架・キャビネット類の転倒・倒壊防止, 本の落下防止

- ・床・壁への正しい固定, 天つなぎ, 背面ブレース, ガラス飛散防止フィルム, …
- ・落下防止バー, 滑り止めシート, 棚板傾斜, …

書架の転倒と本の落下の関係は？ ➡️ さらに検証・研究開発が必要では？

(2) 避難経路・非常口の整備, 利用者への周知

- ・停電時にどういふことになるか？
- ・通行不能な箇所ができたときの対処は？

(3) 防災マニュアルの整備 防災訓練の実施

- ・開館時(日中/夜間/休日)に発生した場合の行動
- ・閉館時に発生した場合の対処

(4) スタッフ一人一人がイメージトレーニングを繰り返す

- ・災害の種類毎に：地震, 火災, 台風, …
- ・場面毎に：日中, 夜間・休日開館時, 閉館時, …
- ・自分の居場所毎に：閲覧室, 書架, 地下書庫, 事務室, …

(5) 日頃から図書館の存在をアピール

- ・学生, 教員, 他部局との良好な関係

(6) 情報発信手段の確保, ソーシャルメディアの活用

(7) 各地域・各都道府県内での館種を超えた図書館ネットワーク, 連絡調整窓口の形成

8. 震災記録の収集・提供・保存

8.1 図書館を含む大学としての取り組み

「みちのく震録伝」東北大学 東日本大震災アーカイブプロジェクト
学術的観点からあらゆる記憶・記録・事例・知見を収集し、アーカイブ
復興・防災・減災のために国内外へ伝達、未来に共有する

8.2 図書館ネットワークとしての取り組み

「震災記録を図書館に」 合同キャンペーン
主な被災 3 県の公共・大学図書館を中心に全国展開
公共図書館は地域資料、大学図書館は学術資料など、役割分担

8.3 図書館としての取り組み

東北大学附属図書館「震災ライブラリー」
市販図書を中心として閲覧室内に設置 (2012.10 現在、図書は 1,300 冊収集済)

9. 全国からのご支援

9.1 被災大学構成員の他大学図書館利用

資料の閲覧・複写・貸出、学習室・研究個室の利用、PCの利用 など。
東北大学の学生 421 名・教職員 36 名が、全国の国立大学図書館にお世話になりました。
(2011 年 4 月 13 日時点の調査による)

9.2 電子ジャーナル・データベースの無料提供

被災大学の研究者・医療従事者が東京大学・京都大学へアクセスすることにより、無料で
検索・閲覧が可能となりました。(2011 年 3 月中旬～5 月中旬)
12 の主要な出版社により、一部の電子ジャーナル・データベースが無料公開されました。

9.3 多数の支援物資・お見舞

全国の大学図書館・関連組織、職員の皆様から、多数の支援物資をお送りいただき、ま
た、お見舞・励ましの言葉を頂戴しました。



【使い捨てカイロ】



【食料】



【ボランティア用菓子】

誠にありがとうございました。

【参考文献】

小陳左和子. そのとき私たちができたこと：東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災。
情報の科学と技術.2012, no. 94, p. 111.

<http://ir.library.tohoku.ac.jp/re/handle/10097/54531>

※ 東北大学機関リポジトリ “TOUR” で 般公開

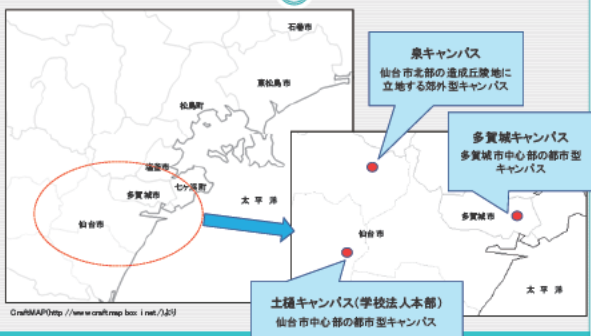
東日本大震災からの復旧過程で考えたこと、 感じたこと

東北学院大学図書館の経験を基に

平成24年11月29日(木)
2012年度私立大学図書館協会
東地区部会研究部研修会
東北学院大学図書館図書情報課(中央図書館)
佐藤 恵

1. 東北学院大学 キャンパス・図書館概要

1. 東北学院大学 キャンパス・図書館概要



1. 東北学院大学 キャンパス・図書館概要



1. 東北学院大学 キャンパス・図書館概要

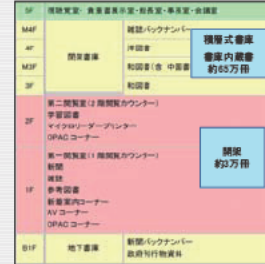
1-1. 中央図書館・中央図書館分室

| | 中央図書館 | 中央図書館分室 |
|-----------------------|-----------|--------------|
| 敷地面積(m ²) | 8,637 | 765 |
| 図書収容能力(冊) | 972,000 | 130,000 |
| 竣工年月 | 1984年11月 | 1985年12月(改装) |
| 閲覧席席数 | 799 | |
| 図書 | 蔵書冊数 | 659,597 |
| | 年間貸出冊数 | 15,111 |
| 雑誌 | 所蔵タイトル数 | 8,311 |
| | 年間貸出タイトル数 | 1,790 |
| スタッフ数 | 専任職員 | 8 |
| | 委託職員 | 24 |
| 通常期 開館時間 | 平日 | 8:30-22:00 |
| | 土曜日 | 10:00-21:00 |
| 年間開館日数 | 295 | 262 |

2010年3月現在

1. 東北学院大学 キャンパス・図書館概要

館内構成(中央図書館)



館内構成(中央図書館分室)



1. 東北学院大学 キャンパス・図書館概要

1-2. 泉キャンパス図書館

| | | |
|-------------|-----------|------------|
| 専有延床面積 (㎡) | 8 100 | |
| 図書収容能力(冊) | 480 000 | |
| 竣工年月 | 1988年3月 | |
| 閲覧席席数 | 500 | |
| 図書 | 蔵書冊数 | 299 554 |
| | 年間貸出冊数 | 10 771 |
| 雑誌 | 所蔵タイトル数 | 3 587 |
| | 年間貸出タイトル数 | 1 133 |
| スタッフ数 | 専任職員 | 3 |
| | 委託職員 | 10 |
| 通常期 開館時間 | 平日 | 8 30-20 00 |
| | 土曜日 | 8 30-20 00 |
| 年間開館日数 | 288 | |

2010年3月現在

館内構成

- 1F 図書センター
図書センター(貸出・返却カウンター)
学芸書 参考書
図書 雑誌
資料センター
OPACコーナー
読書室
- 2F 図書センター
図書センター(貸出・返却カウンター)
雑誌
大学図書 学芸書
図書 資料センター
OPACコーナー
資料センター
学芸書 参考書
図書 雑誌
資料センター
OPACコーナー
読書室
- 3F 図書センター
図書センター(貸出・返却カウンター)
学芸書 参考書
図書 雑誌
資料センター
OPACコーナー
読書室
- 4F 図書センター
図書センター(貸出・返却カウンター)
学芸書 参考書
図書 雑誌
資料センター
OPACコーナー
読書室

1. 東北学院大学 キャンパス・図書館概要

1-3. 多賀城キャンパス図書館

| | | |
|-------------|-----------|------------|
| 専有延床面積 (㎡) | 2 776 | |
| 図書収容能力(冊) | 150 000 | |
| 竣工年月 | 1982年1月 | |
| 閲覧席席数 | 324 | |
| 図書 | 蔵書冊数 | 151 286 |
| | 年間貸出冊数 | 2 299 |
| 雑誌 | 所蔵タイトル数 | 3 041 |
| | 年間貸出タイトル数 | 923 |
| スタッフ数 | 専任職員 | 2 |
| | 委託職員 | 6 |
| 通常期 開館時間 | 平日 | 8 30-20 00 |
| | 土曜日 | 8 30-20 00 |
| 年間開館日数 | 287 | |

2010年3月現在

館内構成

- 1F 図書センター
図書センター(貸出・返却カウンター)
学芸書 参考書
図書 雑誌
資料センター
OPACコーナー
読書室
- 2F 図書センター
図書センター(貸出・返却カウンター)
学芸書 参考書
図書 雑誌
資料センター
OPACコーナー
読書室
- 3F 図書センター
図書センター(貸出・返却カウンター)
学芸書 参考書
図書 雑誌
資料センター
OPACコーナー
読書室
- 4F 図書センター
図書センター(貸出・返却カウンター)
学芸書 参考書
図書 雑誌
資料センター
OPACコーナー
読書室

2. 東日本大震災以前の取り組み

2. 東日本大震災以前の取り組み

宮城県において頻りに起こる地震を背景に・

昭和53(1978)年6月12日 宮城県沖地震
仙台市:震度5(マグ チュ 7.4)

平成20(2008)年6月14日 岩手 宮城内陸地震
仙台市青葉区:震度5弱(マグ チュ 7.2)

10年以内に99%の確率で起こると言われていた
宮城県沖地震を意識した備え

2. 東日本大震災以前の取り組み(大学全体)

2-1. 大学全体の取り組み

- 災害対策委員会及び防災組織の改組
- 地震保険の加入
- 緊急時優先電話の導入(固定電話及び携帯電話)
- 防災備蓄品の導入
- 緊急地震速報装置(「デジタルなまず」)の導入
- 震災時使用無線の導入
- 校舎の耐震診断および耐震補強工事の実施
- 安否確認システムの導入
- 地震対策の実施
(家具の転倒防止・ガラス飛散防止・落下防止)
- 防災訓練の実施(上級救命講習から防災訓練)

学校法人東北学院 東北学院 東北学院1年の記録 2012より

2. 東日本大震災以前の取り組み(大学全体)

1. 安否確認システムとは?

災害発生時、避難場所や帰宅ルートを確認するためのシステムです。
災害発生時、避難場所や帰宅ルートを確認するためのシステムです。

防災備蓄品

安否確認システム

緊急地震速報装置(「デジタルなまず」)

震災時使用無線

学校法人東北学院 東北学院 東北学院1年の記録 2012より

2. 東日本大震災以前の取り組み(図書館)

2-2. 図書館の取り組み

▶ 図書の落下防止対策(中央図書館のみ)



⇒2008年度より年次計画で設置開始(計画時点で岩手宮城内陸地震発生)
⇒4年間で約13000本設置

- ▶ 全学避難訓練への職員・委託スタッフの参加
- ▶ 拡声器・懐中電灯・手動式充電ラジオ・防犯ブザーの設置
⇒2011年度に図書館の一般開放を予定、危機管理対策の環境として購入
- ▶ 緊急時マニュアルの整備

3. そのとき

3. そのとき

3-1. 頻発していた地震とスタッフ間の注意喚起

- ▶ 2011年3月9日 11時45分頃
最大震度5弱 マグニチュード7.2 仙台市青葉区:震度3
- ▶ 2011年3月10日 6時24分頃
最大震度4 マグニチュード6.8 仙台市青葉区:震度2

日本気象協会 tenki.jp/04tp//tenki.jp/より

<委託スタッフ業務連絡引き継ぎ書 報告日:3月9日・10日>より抜粋
各自緊急時マニュアルを確認しておくこと
・閲覧カウンター スタッフは小規模でも地震が起きた際は利用者が書架から離れるよう館内放送のハンドマイクで指示すること
・緊急時に備え連絡網が手元にあるか確認すること
・勤務時間外に被害に遭った場合や通勤困難な事態に陥った場合の連絡手段を確認しておくこと

3. そのとき(土樋キャンパス)

3-2. 東日本大震災発生当時の開館状況(春休み休館中)

| | 開館状況 | 在館利用者数 | スタッフ 在館状況 |
|-------------|---------------|---------------------|--|
| 中央図書館 | 通常開館 | 20名程度 (閉架書庫入庫1名) | 合計21名 閲覧フロア 委託スタッフ11名 事務フロア 委託スタッフ4名 専任職員6名 |
| 中央図書館分室 | 通常開館 | 0名 | 閲覧フロア 2名 |
| 泉キャンパス図書館 | 閉館 (蔵書点検日) | 0名 | 合計10名 閲覧フロア 委託スタッフ5名 事務フロア 委託スタッフ2名 専任職員2名 |
| 多賀城キャンパス図書館 | 通常開館 | 5名程度 | 合計6名 閲覧・事務フロア 委託スタッフ5名 専任職員1名 |

3. そのとき(土樋キャンパス)

3-3. 東日本大震災発生当時の状況(中央図書館・分室)

| | 大学(土樋キャンパス)の動き | 中央図書館・分室の動き |
|---------|---|---|
| 14:46 | 土樋キャンパス5号館において全学教授会開催中。 全専任教員のほか、学長、副学長を含めた役員者も出席。 | 本震発生 仙台市青葉区 震度6弱 震源 陸沖 マグニチュード8.8(観測史上最大)→後日9日修正 揺れの時間 約170秒(2012/3/28 気象庁報道資料発表より) 館内利用者に対し、大声で書架から離れ身の安全を確保するよう注意連絡、安全誘導のアナウンス |
| 14:47ごろ | 揺れが弱まらずに放送設備まで及び開始 | 全館停電。非常灯およびコンピュータ用無停電電源装置(UPS)・火災報知器作動 |
| 14:48ごろ | | 最も強い揺れが少しおさまった時点で、揺れている最中ではあったがスタッフが館内を回り呼びかけを行う |

3. そのとき(土樋キャンパス)

| | 大学(土樋キャンパス)の動き | 中央図書館・分室の動き |
|---------|---|---|
| 14:50ごろ | | 委託統括・閲覧スタッフが閲覧フロアにいた利用者の安全確認を行い、手荷物を持たずに指定避難場所(グラウンド)へ避難するよう誘導。 スタッフも着の身着のまま学内指定避難場所(グラウンド)へ避難。 専任職員・委託統括・閲覧リダは分担して閉架書庫内の安全確認へシステム担当者はサーバを確認後、完全停電に備えシャットダウン、通電時の事故防止のため、各種機器電源をOFFに。 |
| 15:30ごろ | 各部署職員が協力し、防災倉庫や施設課内よりブルシートや毛布等の物資を搬出。 この時点では停電のため、地震の被害状況・津波などの情報は伝わっていない。 | 閲覧フロア、閉架書庫ともに無人であることを確認の上、専任職員・委託統括・閲覧リダが避難開始。 この時点で避難場所は隣接する東北大学片平キャンパスで、スコト(緊急避難場所として本学が東北大学より使用許可を受けていた)へ変更となっていた。後から避難した専任職員・委託統括・閲覧リダはスコトへ直行。 |

3. そのとき(土樋キャンパス)

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

| | 大学(土樋キャンパス)の動き | 中央図書館・分室の動き |
|---------|---|--|
| 15 55 | 学生安否確認システム発動 | |
| 15 57ごろ | 水道 一部不通 電気・ガス 完全ストップ | 手荷物や上着を残してきた職員が 且図書館へ戻る。そこで初めて仙台空港に津波が到達している映像を携帯電話のワセグ放送で目にする。 |
| 16 00ごろ | 降雪が激しくなる。 暫定的ではあるが土樋キャンパス体育館の安全が確認されたため、避難していた全員が体育館へ移動。 **専任職員の動き** 1) 学生・教職員の避難誘導 2) 生協の物資提供折衝 3) 7号館屋上突発倒壊の危険性があり、自主的に市道を封鎖、交通整理実施 4) 正門前にテント設置 東北学院災害対策本部設置(土樋キャンパス本館会議室) メンバー 理事長、学長以下、各課長まで | 委託スタッフについては解散とし、各自安全に帰宅するよう伝える(大部分が徒歩で帰宅) 今後については随時連絡することとする。 |

3. そのとき(土樋キャンパス)

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

| | 大学(土樋キャンパス)の動き | 中央図書館・分室の動き |
|--|---|-------------|
| | 地下鉄・JR等の公共交通機関がすべてストップしたことから、体育館を宿泊可能な避難所とし、設営を開始。図書館専任職員を含めた大学職員、残った委託スタッフに学生会常任委員の学生が加わり、非常用バッテリー・簡易トイレ・着替え用テントの設置や、ランタン・水・簡易食料等の搬入、配布を行う。 この頃になり、多賀城市方面に津波襲来の情報が入る。 | |
| | 東北学院大学生生活協同組合から在庫食料・飲料の提供を受け、避難者へ配布。 近隣住民も避難してくる | |
| | 体育館内にて職員ミ ティング。翌日は施設管理部門・学生部門と各課長のうち通勤可能な者は集合し、それ以外の職員は自宅待機指示。帰宅困難者は体育館に宿泊し、それ以外の職員は解散。大部分が徒歩で帰宅。 | |

3. そのとき(土樋キャンパス)

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

| | 大学(土樋キャンパス)の動き | 中央図書館・分室の動き |
|-------|---|-------------|
| 21 00 | 災害対策本部において各キャンパス・法人各校の状況を把握 <土樋キャンパス> 約400名が体育館に避難 <泉キャンパス> 約70名(学生・一般市民)が1号館1階ロビに避難 <多賀城キャンパス> 約400名が礼拝堂に避難(多賀城市からの要請により、礼拝堂を避難場所に開放) <中学・高等学校> 約700名(生徒)が保護者を持って各教室にて待機 <福ヶ岡高等学校> 生徒・教職員全員無事。全員下校済み <幼稚園> 園児8人が先生と 一緒に保護者の迎えを待って多賀城キャンパスにて待機後、全員無事に帰宅 | |
| 深夜 | 各キャンパスの避難者数を報道機関へ連絡 | |

3. そのとき(土樋キャンパス)

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

地震によって土樋キャンパス7号館の棟突部分が折れる。この後六軒下通りを東北学院独自の判断で通行止めし、安全を確保

テニスコートに避難。この時点で停電のため地震の被害状況、津波などの情報はまだ伝えられていなかった

降り出した雪と寒さを避けるため、安全が確認された体育館に避難。余震が続く停電の中、不安な一夜が始まった

防災倉庫、備蓄倉庫の物資を選び込み、防災対策がとられる

生協店舗より提供された食料を配布

学校法人東北学院(東日本大震災 東北学院1年の記録)【2012】より

3. そのとき(泉キャンパス)

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

3-4. 東日本大震災発生当時の状況(泉キャンパス図書館)

| | 大学(泉キャンパス)の動き | 泉キャンパス図書館の動き |
|---------|--------------------------|---|
| 14 46 | | 本震発生 仙台市泉区 震度6弱 |
| 14 47ごろ | | 全館停電。非常灯およびコンピュータ用無停電電源装置(UPS)・火災報知器作動 |
| 15 30ごろ | | 全員の安否確認後、スタッフ解散。委託スタッフ・専任職員ともに怪我人なし 専任職員・委託統括はテントや仮設トイレの設営、学生対応等の補助。 |
| 21 00 | 約70名(学生・一般市民)が1号館1階ロビに避難 | |

3. そのとき(泉キャンパス)

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

体育館は地震が激しく傾いたため、天井部の天井が落下

教室の照明や機材なども落下や倒壊で大きな被害を受けた

構内では大きな地震の揺れが発生

学校法人東北学院(東日本大震災 東北学院1年の記録)【2012】より

3. そのとき(多賀城キャンパス)

3-5. 東日本大震災発生当時の状況(多賀城キャンパス図書館)

| 大学(多賀城キャンパス)の動き | 多賀城キャンパス図書館の動き |
|-----------------|---|
| 14 46 | 本震発生 多賀城市 震度5弱 |
| 14 47ごろ | 全館停電。非常灯およびコンピュータ用無停電電源装置(LPS)、火災報知器作動 専任職員、委託スタッフから館内利用者に対し、館内放送にて書架から離れ身の安全を確保するよう注意連絡、安全誘導のアナウンス。 |
| 14 48ごろ | 最も強い揺れが少しおさまった時点で、揺れている最中ではあったが1 2階へ別れ館内を回り、利用者の安全確認を行い、避難場所(グラウンド)へ避難するよう誘導。 |
| 15 00ごろ | 当初全員が指定避難場所(グラウンド)へ避難したが、国道45号線まで津波襲来との情報により高台にある図書館・礼拝堂前スペースへ移動。 利用者・委託スタッフ・専任職員ともに怪我人なし |

3. そのとき(多賀城キャンパス)

| 大学(多賀城キャンパス)の動き | 多賀城キャンパス図書館の動き |
|-----------------|---|
| | 一般市民が避難してくる。中には津波に飲みこまれず濡れになった人も。保健室職員が怪我人等の手当を行うが、人手が足りず低体温症の症状を呈した市民を事務職員が介抱するなどの対応が行われる。 |
| 21 00 | 約400名(学生・一般市民)が避難(多賀城市からの要請により、礼拝堂を避難場所に開放。体育館は照明落下のため使用不可) |

3. そのとき(多賀城キャンパス)

キャンパス近く(仙台湾)で発生したガスタンク爆発事故

多賀城市からの要請により、礼拝堂を避難場所に開放

礼拝堂の狭い椅子の上で不安な一夜を過ごす住民

家族を探す住民が陥った安否確認のチラシや避難者名簿、一時帰宅者名簿等が置かれる

職員は大学に泊まり込み避難所の運営に当たった

学校法人東七学院 東日本大震災 東七学院1年の記録 ①(2012)より

3. そのとき

3-6. 避難行動を振り返って気が付いたこと

- ▶ 「安全な場所へ逃げて！」…って安全な場所ってどこ！？
⇒ 学内指定避難所だけでなく、日頃から館内の「危険箇所」「安全な場所」を把握・周知する必要あり
参考 石巻専修大学図書館地震対応マニュアルver1(図書館ハザードマップあり)
<http://www.isenshu-u.ac.jp/library/img/2011bousai.pdf>
- ▶ 避難の際は「ここには暫く戻れない」ことを想定すべき？
・閲覧スタッフ
⇒ 利用者誘導後、着の身着のまま避難。ひたすら寒さに耐えた
・利用者
⇒ 貴重品のみを持ち避難、まさか13日間もそのままになってしまうとは
- ▶ 設備・施設に施した対策は十分な効果あり、しかし「人」への対策は…

非常時の携行品の確認

3. そのとき

もしも…

- ⚠ 夜間の閉館時間帯に起きていたら…
- ⚠ 長期休暇期間中ではなく通常の授業期間中だったら…
- ⚠ 貴重書展示室で地震に遭っていたら…
⇒ もし出口がふさがってしまったら
⇒ 何らかの原因でハロンガス消火装置が作動してしまったら
- ⚠ 入庫手続きをしていない人が書庫内にいたら…
- ⚠ トイレやエレベーターに閉じ込められた人がいたら…

4. 翌日以降の状況

4. 翌日以降の状況

TOHOKU GAULIN UNIVERSITY

4-1. 翌日以降の状況

| | 大学の動き | 3キャンパス図書館の動き |
|---------|---|---|
| 3/12(土) | ・災害対策本部会議開催 【特記事項】 <土曜キャンパス> 体育館(避難場所以外の建物)への出入り禁止 <泉キャンパス> キャンパス内の地盤沈下、地割れが著しく、各建物の被害が甚大であったことからキャンパス内全面立ち入り禁止。 キャンパス全域に配水している給水タンクの破壊一断水。 <多賀城キャンパス> 関係者以外全面立ち入り禁止。 【出来事】 ・泉・多賀城キャンパスの状況確認 ・後期入試合格発表(小掲示板上にて) 23:00 土曜キャンパス一部の電気回復 | <中央図書館> 職員・委託統括・委託スタッフ ⇒ 自宅待機 <泉キャンパス図書館> 職員・委託スタッフ⇒ 自宅待機 <多賀城キャンパス図書館> 職員・帰宅困難なスタッフ ⇒ 避難所運営補助 委託スタッフ⇒ 自宅待機 |

4. 翌日以降の状況

TOHOKU GAULIN UNIVERSITY

| | 大学の動き | 3キャンパス図書館の動き |
|---------|---|--|
| 3/14(月) | 【決定事項】 卒業式(3月24日)入学式(4月4日)中止 【出来事】 8 30 災害対策本部にて職員全体ミーティング。 職員は所属問わず通勤可能な最寄りのキャンパスへ出勤することとする 12 10 ・電話回線・インターネット・ホームページ 復旧・ホームページによる情報発信再開 【大学ホームページ 新着情報更新】 ・「【在学生の皆様へ】大震災による就職課からのお知らせ」 ・「卒業・学位記授与式 中止のお知らせ」 | <金館共通> 建物の安全確認が不可能であるため、3/23(水)まで図書館建物内立ち入り禁止 <中央図書館> 出勤可能な職員・中央・泉統括・委託スタッフによる打ち合わせ 図書館玄関「A」に「休館」の掲示 ⇒ その後解散 ※中央・泉統括は委託企業の仙台営業所へ <泉キャンパス図書館> 職員・委託スタッフ 自宅待機 <多賀城キャンパス図書館> 職員・帰宅困難なスタッフ ⇒ 避難所運営補助 委託スタッフ⇒ 自宅待機 |

4. 翌日以降の状況

TOHOKU GAULIN UNIVERSITY

| | 大学の動き | 3キャンパス図書館の動き |
|---------|--|---|
| 3/15(火) | 【大学ホームページ 新着情報更新】 ・【注意喚起】福島原発事故による備え ・2011年度アメリカ研究夏期留学参加者 ガイダンス延期のお知らせ ・教職課程センターからの行事延期のお知らせ | <中央図書館・泉キャンパス図書館> 職員 通勤可能なキャンパスへ出勤。学生 安全確認・災害対策本部での問い合わせ・ 受付等の補助に入る 委託統括 委託企業仙台営業所へ出勤。 途中適宜大学へ 委託スタッフ 自宅待機 <多賀城キャンパス図書館> ・職員・帰宅困難なスタッフ 避難所運営 補助 ・委託スタッフ 自宅待機 ※この勤務体制が3/23(水)まで続く |

大学授業再開は5/9(月)を目標
 テレビ・ラジオ・新聞にて、速日安全確認呼びかけと学事日程の変更をアナウンス
 災害対策本部(本館会議室)は3/29(火)をもって閉鎖し、業務を総務課へ移管

4. 翌日以降の状況

TOHOKU GAULIN UNIVERSITY

4-2. 大学ライフライン復旧状況

| | 復旧日 |
|-----------------------------------|--|
| 電気 | 土曜キャンパス : 3月12日(土) 泉キャンパス : 3月14日(月) 多賀城キャンパス : 3月14日(月) |
| 水道 | 土曜キャンパス : 3月12日(土) 泉キャンパス : 3月10日(金) 多賀城キャンパス : 4月1日(月) |
| ガス | 土曜キャンパス : 3月9日(月) 泉キャンパス : 4月24日(日) 多賀城キャンパス : 4月1日(金) |
| 電話 | 土曜キャンパス : 3月14日(月) 泉キャンパス(学務) : 3月16日(水) 多賀城キャンパス : 3月16日(水) |
| 全学インターネットサーバー | 3月14日(月) |
| 全学メールサーバー | 3月16日(水) |
| 図書館システム(E-Cat)サーバー Windowsサーバー | 3月25日(金) |

復旧の速さ
 電気 > 水道 > 電話 > ガス
 今回は市中心部の復旧が早かったため、早期復旧キャンパスが各種連絡窓口となり、各キャンパス・大学以外の設置学校に対し人や物資の融通を行うことができた

4. 翌日以降の状況

TOHOKU GAULIN UNIVERSITY

青山学院大学からの支援物資は津波被害を受けた多賀城・塩釜市周辺住民の避難所となっていた多賀城キャンパスにも届けられた

本館会議室での災害対策本部会議(多賀城・泉・中・高・短大・幼稚園の情報は電話の連絡のみの状況)

対策本部の扉板には情報伝達指示系統などが大書されている

ライフライン依存ホワイトボードに常に更新され続けた

後期日曜日入学試験の発表などもネット上で発信することができず、土曜キャンパスの掲示板上に掲載された

学生たちによるボランティア募集の様子

学校法人東北学院(東北大学) 東北学院(東北大学) 12/21/2011

4. 翌日以降の状況

TOHOKU GAULIN UNIVERSITY

4-3. 震災直後の全職員最大の任務

> 学生・生徒安全確認
 教職員・学生会常任委員(学生23名)による総力戦
 ⇒ 電話による安全確認 / 自治体発表避難者リスト調査 / 住所近くの避難所回り

> 大学における学生安全確認状況の推移
 22(火) : 9,000名 確認済(学生2名の死亡確認)
 23(水) : 10,384名 確認済(未確認数1,833名)
 24(木) : 11,593名 確認済(未確認数624名)
 28(月) : 11,984名の安全確認(未確認数233名)
 31(木) : 12,217名 全員確認 確認状況100%(震災発生から21日目)

逝去者) 大学 学生5名 / 高等学校 生徒2名 / 平成23年度入学予定者4名(中高2・大2)
 ※教職員は全員無事であったが、家族の死亡・自宅消失あり

4. 翌日以降の状況

4-4. 3/15(火)～3/23(水)までの図書館職員の業務

- ▶ 多賀城キャンパス避難所運営【多賀城キャンパス礼拝堂】
- ▶ 安否確認問い合わせ専用ダイヤルの受付【勤務場所: 総務課】
- ▶ 学生安否確認(電話での問い合わせ)【勤務場所: 学生課】
- ▶ 災害対策本部補助【勤務場所: 総務課】

⇒この間図書館関連業務は 一切行わず
⇒建物の安全確認は教室棟・本部棟・事務棟が優先
⇒3/23以降 卒業式中止による卒業証書発送等の教学系業務を各部署分担して担当

↓

大規模災害時には、
「図書館職員」から「大学職員」へ

4. 翌日以降の状況

4-5. 困難を極めたこと

- ▶ テレビ・ラジオ以外の情報発信
 - ・大学から ⇒ ホームページが唯一の手段
 - ・図書館から ⇒ 図書館の閉鎖期間中、図書館ホームページの更新ができない(図書館から発信できる唯一の手段の断絶)

大学 → ホームページで情報提供 → 学生・保護者

← 情報収集したくてもパソコンがない(使えない)
← 電話で問い合わせても繋がらない...

停電・PCの損壊や流失・学内サーバー停止に影響されない発信メディア

Twitter等、学生の間でも活用されている手軽なソーシャルメディアツールの活用

災害時対策としての図書館公式アカウントの有用性
例) 東日本大震災時に運用を開始したTwitter図書館公式アカウント
⇒ 東北大学「hapi.no.sake」、福島大学「Toiokkuin」

4. 翌日以降の状況

- ▶ 食料の確保
- ▶ ガソリンの不足
- ▶ 電源の不足
- ▶ 市中心部の復旧は早い
- ▶ 通勤手段の確保(公共交通機関の途絶)
 - ▶ 部運休が続くため、長距離を徒歩や自転車で通勤
- ▶ 連絡手段の確保
 - ▶ 携帯電話の電波: 土樋キャンパス周辺では通じることが多い
 - ⇒ 音声電話の復旧が遅いため、職員同士の連絡はメールを活用
 - ⇒ 震災発生以前に非常時携帯電話連絡網を作成効果あり
- ▶ 保育所・幼稚園・小学校の休園・休校

震災の翌日から市街地のスーパーでは多くの買い物客が行列をつくった

5. 図書館被害状況

5. 図書館被害状況

5-1. 全館被害状況

| | 蔵書冊数 | 図書資料 落下冊数 | 建物・設備の被害状況 | 書架の被害状況 |
|-------------|-------|-----------------|--|---|
| 中央図書館 | 約65万冊 | 約39万冊 (60%) | ・壁面タイルの亀裂および一部脱落 ・壁面等に亀裂発生 ・利用用パソコン台転倒 ・事務用パソコン1台破損 | 書架の傾斜 中央図書館M3F・M4Fドステール書架 傾斜・固定ボルト緩衝が著しい |
| 中央図書館分室 | 約7万冊 | 約4万冊 (60%) | ・壁面タイルの亀裂および一部脱落 ・壁面等に亀裂発生 | 書架の傾斜 |
| 奥キャンパス図書館 | 約28万冊 | 約18万冊 (70%) | ・壁面等に亀裂発生 ・トイレタイルの剥離 ・利用用パソコン台落下 | 書架の傾斜 |
| 多賀城キャンパス図書館 | 約15万冊 | 約1万500冊 (1%) | 壁面等に亀裂発生 | 保存書架の一部傾斜 |

東北地区大学図書館協議会ホームページ「東北地方太平洋沖地震による東北地区大学図書館協議会加盟館被害状況」より
(<http://www.library.tohoku.ac.jp/~tohokuchu/~earthquake.pdf>)

5. 図書館被害状況(中央図書館)

5-2. 建物内立ち入り許可時点(3/24)の館内の様子

<開架閲覧室(12階)>

固定されていなかった書架が倒壊

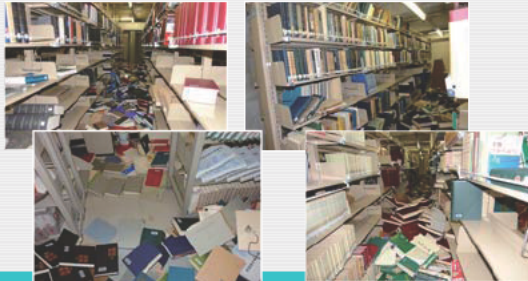
カウンターを直撃した書架

利用者は貴重品のみを持ち避難

5. 図書館被害状況(中央図書館)

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

5-3. 建物内立ち入り許可時点(3/24)の館内の様子 〈閉架書庫(3・M3階)〉



5. 図書館被害状況(中央図書館)

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

5-4. 建物内立ち入り許可時点(3/24)の館内の様子 〈閉架書庫(4・M4階)〉



5. 図書館被害状況(中央図書館)

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

5-5. 建物内立ち入り許可時点(3/24)の館内の様子 〈事務室・貴重書展示室・サーバー室〉



5. 図書館被害状況(泉キャンパス図書館)

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

5-6. 建物内立ち入り許可時点(3/24)の館内の様子 〈2階閲覧室〉



5. 図書館被害状況(泉キャンパス図書館)

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

5-7. 建物内立ち入り許可時点(3/24)の館内の様子〈地下1 2階書庫〉



6. 復旧までの道のり

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAGLIN UNIVERSITY

6-1.開館(授業再開)までの主な復旧作業工程

| | 大学の動き | 中央図書館・分室 | 泉キャンパス図書館 | 多賀城キャンパス図書館 |
|----------|--------------------|--|---|---|
| 3/24 (木) | 学生安否確認。 ⇒未確認数4名 | ・建物の応急安全確認/応急前搬移終了 ・職員・スタッフの図書館への立ち入り許可される。 【復旧作業】 ・事務室復旧開始 | ・建物の応急安全確認/応急前搬移終了 ・職員・スタッフの図書館への立ち入り許可される。 事務室復旧開始 | ・建物の応急安全確認/応急前搬移終了 ・職員・スタッフの図書館への立ち入り許可される。 事務室復旧開始 |
| 3/25 (金) | | 【復旧作業】 ・図書館システム(E-Cats)Windowsサーバー再起動 ・記録及び事務室復旧作業 | | |

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAGLIN UNIVERSITY

| | 大学の動き | 中央図書館・分室 | 泉キャンパス図書館 | 多賀城キャンパス図書館 | |
|----------|---|---|---|---|--|
| 3/28 (月) | 【安否確認】 学生:11984名の安否確認が終了。233名が未確認【出来事】 ・文部科学省高等教育局長の視察 ・災害ボランティアの募集開始 【決定事項】 ・新入生に対する財政的な支援を決定 | 【復旧作業】 ・図書館被害状況調査-復旧作業本格始動 ・読書フロア整備開始 | 【復旧作業】 ・図書館被害状況調査/復旧作業本格始動 ・読書フロア整備開始 | 【復旧作業】 ・図書館被害状況調査/復旧作業本格始動 ・返却のみ受付開始 ・事務室復旧(出勤者3名) 【出来事】 ・スタッフ1名⇒本日以降中央図書館勤務(応援) ・スタッフ1名⇒本日以降泉図書館勤務(応援) | |
| 3/29 (火) | 【出来事】 「東北学院大学災害ボランティアステーション」設置 | 各館開架閲覧室を中心に復旧作業 | | | |
| 3/30 (水) | 【出来事】 「東北学院大学災害ボランティアステーション」設置 | 【利用者対応】 ・被災大学生生に対する学習支援本運用開始 【復旧作業】 ・開架閲覧室整備開始 | 【復旧作業】 ・書架破壊状況調査 | 【復旧作業】 ・被害状況チェック終了 ⇒返下冊数1521冊(うち破壊図書約100冊) ・上水道止水(復旧) | |

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAGLIN UNIVERSITY

| | 大学の動き | 中央図書館・分室 | 泉キャンパス図書館 | 多賀城キャンパス図書館 |
|----------|---|---|------------------------------------|---|
| 3/31 (木) | 【安否確認】 安否確認状況(100%) 大学:死亡者:3名 行方不明者:2名 高等学校:死亡者:2名 【出来事】 平成23年度予算削減・凍結および(暫定)補正予算編成開始 | | | |
| 4/1 (金) | | 【その他業務】 ・年度末業務開始 (雑誌納品集計・調査回答) | | 【ライブラリ】 ・ガス復旧 ・水道復旧(飲料不可) 【復旧作業】 ・1階・2階読書場の落下図書搬移終了 |
| 4/4 (月) | 【出来事】 ・青山学院大学・関西学院大学ボランティアチーム来学(支援物資の運搬) 【その他】 ・東スタッフと中央スタッフの交換勤務開始 | 【復旧作業】 ・3階読書室書架戻し作業終了 【その他】 ・東スタッフと中央スタッフの交換勤務開始 | 【出来事】 ・学生復旧ボランティアによる作業補助開始(4/7) | 【特記事項】 ・水道復旧(飲用可) |

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAGLIN UNIVERSITY

| | 大学の動き | 中央図書館・分室 | 泉キャンパス図書館 | 多賀城キャンパス図書館 |
|---------|--|--------------------------|-------------------------|---|
| 4/5 (火) | | 【復旧作業】 ・4F書架戻し作業 | | 【利用者対応】 ・教員(2名)・学生(1名)より、早期開館要望 【その他業務】 ・LL4半期棚敷 |
| 4/8 (水) | 【出来事】 ・大学ホームページにて授業再開日(4月9日)発表 | 【その他業務】 ・LL4棚敷処理 | | 【利用者対応】 ・教員(1名)早期開館要望 |
| 4/7 (木) | 【出来事】 2333名マグニチュード7.1震度9以上の最大規模余震発生 | 【復旧作業】 ・4階読書室書架戻し作業終了 | 【復旧作業】 ・2階開架読書の仮置き作業 | |

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAGLIN UNIVERSITY

| | 大学の動き | 中央図書館・分室 | 泉キャンパス図書館 | 多賀城キャンパス図書館 |
|----------|--------------------------------|--|--|---|
| 4/8 (金) | 【出来事】 キャンパス内建物診断のため再度立ち入り禁止 | 【勤務体制】 ・専任職員は12:00解散指示 【4/7余震被害状況】 ・1F落下なし ・2F100箇所程度落下 ・3F新館床下 ・4F-南館床下 ・M3FM4F未整理部分へさらに落下 | 【勤務体制】 ・専任職員12時解散指示 ・余震によりスタッフ交代勤務 【4/7余震被害状況】 ・地下1・2階および2階→復旧作業中のため落下図書の手搬は困難 | 【勤務体制】 ・専任職員は12:00解散指示 ・スタッフ交代勤務11時解散指示 【4/7余震被害状況】 被害状況確認・写真撮影⇒同日中に落下図書の搬移完了 ・1・2階貫通廊下105用・読書室 照明落下(取り付け器具ごと)1箇所 ・スタッフ1名震度後初出勤 |
| 4/11 (月) | 【出来事】 キャンパス内立ち入り解禁 | 【復旧作業】 ・図書館復旧作業再開 ・余震被害状況調査 | 【復旧作業】 ・図書館復旧作業再開 ・余震被害の写真記録 | |
| 4/12 (火) | | 【図書館中情報発信】 「図書館被害状況について」 | 【出来事】 ・中央補助スタッフ・委託企業サポートスタッフ(社員)派遣開始 | |

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAGLIN UNIVERSITY

| | 大学の動き | 中央図書館・分室 | 泉キャンパス図書館 | 多賀城キャンパス図書館 |
|----------|--|--|-------------------------------|------------------------------------|
| 4/13 (水) | 【出来事】 ・土曜キャンパス・多賀城キャンパス(スカンセン)センター再開。 | | 【復旧作業】 ・2階書架修理作業開始 | |
| 4/15 (金) | | 【図書館中情報発信】 「東日本大震災被災大学図書館への支援(私立大学図書館協会)」※私大図書館ホームページへリンク | | |
| 4/18 (月) | 【出来事】 ・土曜キャンパスにて「東北学院大学の復興に向けた全学の思い」開催 →沿路礼拝のち、学生・教職員安否・被災状況・震災後に改訂された学務日程について報告 | 【復旧作業】 ・M33階読書室書架戻し終了 | 【点検・工事】 ・南館書架修理完了 | |
| 4/19 (火) | | | 【復旧作業】 ・仮置き図書の配架作業開始(南館書架) | 【出来事】 スタッフ(2名) ⇒本日以降中央勤務(応援) |

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

| | 大学の動き | 中央図書館・分室 | 泉キャンパス図書館 | 多賀城キャンパス図書館 |
|----------|--|--|----------------------------|---|
| 4/22 (金) | | 【図書館中情報発信】 ・図書館の再開(3月9日)について ・教職員用/図書館の再開について(文書印刷・ポスター) | | |
| 4/27 (水) | 【出来事】 ・本館キャンパス・多賀城キャンパスにて新生入生オリエンテーション開催 (泉キャンパスは立ち入り禁止のため、泉キャンパス所属の新生は本館キャンパスへ進学) | | 【復旧作業】 ・地下階用図書架・落下図書の復旧 | |
| 5/8 (金) | | 【復旧作業】 ・M4階研究書架資料運出し作業 | 【出来事】 ・図書館内のトイレ復旧 | |
| 5/9 (月) | 授業再開 | 図書館閉鎖(部分閉鎖) 分室のみ・館外貸出⇒7月19日(火)再開⇒6/29 ※以降、閉鎖と並行して下記のとおり作業続行 中央図書館閉鎖作業：7月1日まで 泉キャンパス閉鎖作業：7月7日まで | 図書館閉鎖(完全閉鎖) | 【利用者対応】 ・新入生図書館説明会 ・工学基礎教育センター相談コーナーへの施設貸出開始(～5/31) |

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

6-2. サービス再開状況

| | 中央図書館 | 中央図書館分室 | 泉キャンパス図書館 | 多賀城キャンパス図書館 |
|---------------------------|---|--|---|---|
| 館外貸出 閲覧機式 字内・字外相互利用 | 6月8日(月) ※M4Fのみ7/4 | 7月19日(火) ※中央館受付とし、開館は3/5 | 6月8日(月) ※B1Fのみ7/8 | 6月9日(月) |
| 入庫受付 | 3 M3階：7月11日(月) M4F：8月20日(火) | 9月5日(月) | 7月11日(月) | |
| 購入要領図書受付 | 9月27日(金) | | 8月1日(水) | 9月16日(月) |
| 利用説明会 | 6月8日(月) | | 6月8日(月) | 5月9日(月) |
| 利用時間 | 7/9 9:00 18:00 7/11 8:30 20:00 8/10 9:00 19:30 9/20 8:30 22:00 (通常開館) | 9/3 中央館受付 9/6 10:00 17:00 9/20 18:00 21:00 (通常開館) | 7/9 9:00 17:00 7/11 8:30 20:00 8/10 9:00 17:00 9/20 8:30 20:00 (通常開館) | 7/9 9:00 17:00 7/11 8:30 20:00 8/10 9:00 17:00 9/20 8:30 20:00 (通常開館) |
| 一般利用 (字外館)受付 | 9月20日(火) 後期授業開始日 | | 9月20日(火) 後期授業開始日 | 9月20日(火) 後期授業開始日 |

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

6-3. 被害状況の把握

- ▶ 本震直後より全キャンパス図書館立ち入り禁止(～3月24日)
- ▶ 被害状況調査期間：建物診断 / 3月12日 23日
内部被害調査 / 3月24日 30日

中央図書館の門扉に貼られた建物診断結果用紙には「調査困難」の文字が

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

6-4. 復旧作業方針の決定

- ▶ 中央図書館の例
- ▶ 5月部分閉鎖 9月全面閉鎖を目標に！

| | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|----------------------|----|----|------|----|------|------|------|
| 事務フロア復旧 | → | | | | | | |
| 開架閲覧フロア 図書館システム復旧 | → | | 部分閉鎖 | | | | 全面閉鎖 |
| 閉架書庫復旧 | → | → | → | → | → | → | → |
| 大学学事日程 | | | 授業開始 | | 前期終了 | 夏季休暇 | 後期開始 |

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

6-5. 落下図書戻し

中央図書館落下図書戻し作業の様子

after

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

6-6. 4.7最大余震

- ▶ 2011年4月7日(木) マグニチュード7.1 震度6強
- ▶ 3.11の余震としては最大規模。 時停電。
- ▶ 4月8日(金)より再び建物立ち入り禁止(4月11日(月)解除)

6. 復旧までの道のり

6-7. 復旧作業再開 (4/11-)

泉キャンパス図書館復旧作業の様子
(学生ボランティアが活躍)

6. 復旧までの道のり

6-8. 被害を受けた書架台数と修復工事日数 多賀城キャンパス(なし) 多賀城キャンパス(5月6日開始)

| | 中央図書館 | | | 中央図書館分室 | | | 泉キャンパス図書館 | | |
|----------------|-------|------|---------------------------|---------|------|----------------------------|-----------|------|--------------------------|
| | 階数 | 被害台数 | 復旧工事 工期 | 階数 | 被害台数 | 復旧工事 工期 | 階数 | 被害台数 | 復旧工事 工期 |
| スチール書架 (複式) | M3階 | 81台 | 5/30 6/1 3日間 | 1 4階 | 90台 | 6/16 7/5 8 実工事日数 5日間 | | | |
| | M4階 | 545台 | 6/2 6/23 実工事日数 19日間 | | | | | | |
| 木製書架 (複式) | | | | | | | 1階 | 9台 | 4/13 29 実工事日数 13日間 |
| | | | | | | | 2階 | 288台 | |
| 電動書架 | | | | | | | 地下 | 276台 | 6/24 7/4 実工事日数 8日間 |

6. 復旧までの道のり

6-9. 書架修復・書庫復旧工程(中央図書館閉架書庫)

書架設置業者による事前診断
要修復書架の確定
配架された資料の搬出
解体
背面に筋交いを入れる
組み直し
ボルト固定
資料搬入・配架

設置当時の強度を持っているので
診断もスムーズ

M4階書庫はほぼ全ての書架について修復が必要
⇒フロアを全て空っぽにしなければ...
※M4階(有記フロア) 床高タイトル数約8,200

とにかく人海戦術!

6. 復旧までの道のり

6-10. 書架・施設修復工事の様子

床面アンカー止め部分

歪みの角度を計測

歪みのひどい書架を 部解体
(背面に筋交いを入れたのち、再度組み直す)

6. 復旧までの道のり

従来の「点」で支えていたボルトに加え
「面」で支えるボルトを追加

6. 復旧までの道のり

筋交い(ブレース)を入れ
横方向の揺れに対する強度をUP

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

泉キャンパス図書館書架修復工事の様子
(2011年6月24日-7月4日)

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

6-11. 閉架書庫資料の搬入・配架ルート

赤チーム
青チーム
黒チーム
1チームあたり4名程度に分かれて作業

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

6-12. 改めて図書館の設備を見る・

- ▶ 書庫内の配管が多い
⇒ 各種配管が縦横無尽に。
水道管破損による資料の水損のおそれ
- ▶ 避難通路の確保に不安がある
⇒ 全ての通路に資料が落下すると逃げられない
⇒ 「資料を落とさない」通路を確保する必要あり?
- ▶ 書庫の見通しが悪い
⇒ 資料保存の観点から窓の増設は困難?
⇒ 照度の高い懐中電灯・蓄光テープ等の設置

停電時の書庫内

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

6-13. 開館へむけて決めなくてはいけないこと

- ▶ 資料受入はどうする?
雑誌 開館予定日1週間前から受入再開
図書 5月に開催の図書館委員会にて予算案が承認され次第受入開始
- ▶ 未返却図書の扱いは?
⇒ 管保は「貸出中の図書の確認」という形を取る
⇒ 死亡・行方不明学生への貸出状況の確認(該当なし)
⇒ 震災当日以降開館までの日数分はペナルティ対象外とする
※帰国した留学生の未返却図書の返却あり(国際交流課経由)
- ▶ 被災により汚破損・紛失した貸出資料の対応は?
⇒ 弁済なし
⇒ 汚破損の状況問わず、現物があるものは全て返却として受け付ける
⇒ 届出書の記入をお願いする

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

6-14. 部分開館(2011年5月9日)

復旧作業のため開架書架の一部を閉鎖した状態で開館
(泉キャンパス図書館)

6. 復旧までの道のり

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

6-15. 復旧作業を行う上で留意したこと

- ▶ 作業中の安全確保
⇒ 緊急地震速報を聴くことができるよう、書庫内・閲覧室内に常時ラジオ放送を流す
- ▶ 肉体労働かつ長期戦となるため、絶対に無理をしない。
- ▶ 人で書庫内に立ち入らない。作業時は必ず複数人で。
- ▶ 作業前に非常階段・非常口位置を確認
- ▶ 揺れを感じた際には素早く書架から離れ、安全な場所へ
⇒ 書庫内の「比較的安全な場所」の確認
- ▶ お互いに声を掛け合い、いたわりの気持ちをお互いに忘れず
- ▶ 休憩タイムはみんなでワイワイと
- ▶ 作業時間は厳密に管理。
⇒ 時間オバや「きりのよいところまで」はスタッフのモチベーションを下げ(指示される側⇒自らの裁量で作業できない)

6. 復旧までの道のり

6-16. 復旧作業を行う上で留意したこと

- ▶ 作業計画・進捗状況をスタッフへ常に公開し、共有する
⇒先が見えない作業の「見える化」
- ▶ 外部への情報公開の重要性(外から見てわからない＝「何もなかった?」)
⇒saveMLAK 不 ムヘ ン(<http://savemlak.jp/ie/ie/saveMLAK/>)「施設情報」への情報提供
⇒図書館ホ ムベ ジに復旧状況を掲載



saveMLAK HP「施設情報」の本学に関する記載ページ



図書館HPで公開した被災状況写真

7. 外部支援

7. 外部支援

7-1. 外部からの各種支援

皆様からのあたたかいご支援・ご協力に心より感謝申し上げます

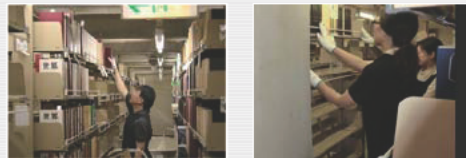
〈お寄せいただいたご厚意〉

- ▶ 私立大学図書館協会 様
⇒「東日本大震災で被災された地域の大学図書館に対する支援」
- ▶ saveMLAK 様 書庫復旧作業ボランティア支援
- ▶ 国立国会図書館 様 資料補修講習会支援
⇒東北地区大学図書館協議会加盟校対象
- ▶ 電子ジャーナル・データベース各社による利用料金の減免
- ▶ たくさんの支援物資とお見舞い

7. 外部支援

7-2. saveMLAKによる支援(2011年6月27日~7月1日)

- ▶ 作業内容:書架修理のために他フロアへ移動した図書・雑誌の搬入および配架
- ▶ 作業人員:延べ14名(1日あたり6名)
元/現役図書館職員(公共・大学・専門)・団体職員・会社員等



新聞記事掲載
『被災図書館など復旧手伝います…司書ら仙台で活動』(2011年6月29日付 読売新聞朝刊)
『特集311大震災 被災施設の復旧支援 施設関係者がボランティア活動』(2011年8月7日付 河北新報朝刊)

7. 外部支援

7-3. 国立国会図書館による支援(東北地区大学図書館協議会加盟校対象)

- ▶ 「東日本大震災により被災した資料の補修・保存に関する研修会」
・開催日:2011年7月27日
・講師:国立国会図書館 収集書誌部資料保存課職員3名
・参加者:36名(参加校:31校)





8. 考えたこと・取り組んだこと


8. 考えたこと・取り組んだこと

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

8-1. After 3.11

- 落下防止バー設置の継続
- ヘルメットの設置(全員に配布)
- 図書館独自の避難訓練の実施
- 全学避難訓練への継続参加
- 緊急時マニュアルの改訂
⇒マニュアル置き場の明確化
- 避難経路マップの掲示







8. 考えたこと・取り組んだこと

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

- 減災へつなげる書架への配架の工夫
- 災害対策グッズの確認
- どんなに小さな揺れでも注意喚起 ⇒常に防災を意識
- 非常時館内アナウンス手法とアナウンス内容の確認(停電時/通電時)
- 館内の危険箇所・安全な箇所の把握
- 避難誘導シミュレーション
- 書庫入庫時には周囲に必ず 声かける
- 利用者の閉架書庫入庫管理 ⇒ 入庫中人数の把握
- 閉架書庫入庫者の避難誘導担当者を明確に
⇒ 本学の例) 閲覧スタッフ 閉架(1 2階) 利用者の誘導
整理スタッフ 閉架書庫(3 M4階) 利用者の誘導
- 図書館イベント(利用説明会・情報検索講座・インタビュー等)での注意喚起アナウンス



大型本等、落下時に危険な資料は書架下段へ

8. 考えたこと・取り組んだこと

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

8-2. 緊急時対応マニュアル

- 緊急事態発生時の連絡先と連絡フローの明示
- 専任職員不在時の緊急連絡先の明示
⇒警察・消防・保健室・管理室・学生課・施設課
- 緊急連絡網へのメールアドレスの記載
- 負傷・急病人発生時の連絡先・対応フローの明示
- 大規模地震発生時の対応
⇒自らの身の安全を守る・揺れが収まってから利用者を避難させる
- 火災発生時の対応
⇒キャンパス内の主な防災設備の説明
- キャンパス指定避難場所の明示
- 館内防災マップの明示
- ⇒消火器・消火栓・避難器具・非常口・非常階段の位置

8. 考えたこと・取り組んだこと

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

8-3. 復旧作業の中で考えたこと

- 大学職員としての立場と図書館職員としての立場
他部局応援に入った際に感じたのは
⇒図書館員としての役割は求められていない
⇒大学職員として「いま」できることは？
- 復旧作業計画作成担当者で復旧作業
最も重要で時間を要するのは「復旧作業計画を立てる」こと
作業計画作成と復旧作業を同時に進めることで、作業効率もUP
⇒作業計画担当者が計画作成に専念できる環境が必要
- 復旧作業と通常業務の切り分け
図書館復旧に全力を注ぎたいと考えても、年度末・年度初めは待つたなしでやってくる(決算・各種調査・会計処理etc)
⇒復旧作業に専念する人、通常業務に専念する人を明確に

職員間・スタッフ間に生じる不公平感・罪悪感の回避

8. 考えたこと・取り組んだこと


TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

- 本を「落とす」か「落とさない」か

| | メリット | デメリット |
|-------|--------------|-------------------|
| 落とす | 書架にかかる負荷の軽減 | 落下図書により避難経路の確保が困難 |
| 落とさない | 落下図書による負傷を防ぐ | 書架全体にかかる負荷の増大 |

資料や設備を守るか？人命を守るか？

- 避難経路の確保(特に閉架書庫内)
狭い通路に本が埋まり、避難の妨げに
⇒「絶対に落とさない」場所も必要？
例1) 避難経路沿いに面する書架は配架を少なめにし、全段に落下防止バーを設置(書架転倒防止策も)
例2) 通路・避難経路に面した書架について重点的に滑り止めシートを設置
特に資料の落下が激しいフロアは避難経路に面した書架から資料を移動(東北大学附属図書館医学分館の例)
五藤庄典・坂本貴代・佐々木賢輔・石橋良子・工藤未来・小林真理絵・震災後1年の復旧と災害対策の現状 - 東北大学および宮城教育大学の図書館 - 図書館の未来から - 大学の図書館 Vol.31 No.8 2012. p.145




ロープを利用した落下防止対策(東キャンパス図書館)

8. 考えたこと・取り組んだこと

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

- 閉館しながら復旧作業を行う難しさ
利用者からのクレーム
「どうして入庫できないのか?」「どうして出納してくれないのか?」
⇒被災状況・復旧状況の写真を公開し理解を得る
「書架に張ったロープが邪魔で使いにくい!」
⇒余震が収まるまで、安全を第1に考えた措置であることを伝え理解を得る



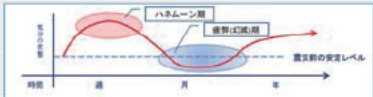
図書館復旧中

復旧作業・利用制限開始のお知らせ(東キャンパス図書館)

8. 考えたこと・取り組んだこと

8-4. 大切にしたいこと -こころのケア

- 職員・スタッフ全員が被災者である
 - ⇒特に仙台では被害が甚大な沿岸部と市中心部の復旧の差が激しい
 - ⇒復旧の明暗がはっきりしている分、個々人の感覚に温度差がある
- 非常時の個々人の行動の差・意識の差から生まれる小さなほころびの解消
 - ⇒非常時の行動は強く印象に残る⇒「その行動が必要であった」理由を汲み取る
- 復旧作業が長期に亘る場合 ⇒大災害後の「こころの動き」を理解する



震災の数日後から1~2か月程度は、「みんなで 一緒に頑張ろう!」と 時に気分が高揚する、『ハネムーン期』と呼ばれる時期がありました。そこから数か月ほど経つと、疲労が蓄積し、現実的な壁にぶつかりたりして、気分も落ち込みがちになります。今がちょうどその『復旧期』の時期にあたります。

東北学院大学カウンセリングセンター「震災から約1年 今、何をしたいか」2012

9. これから、図書館ができること

9. これから、図書館ができること

東北学院東日本大震災アーカイブプロジェクト(2012.3-進行中)

- ＜図書館・法人事務局広報課との連携事業＞
 - ⇒昭和53(1978)年に起きた宮城県沖地震の記録が残っていなかった反省を踏まえ、震災にかかる東北学院の記録を整理し後世に伝える
 - ⇒震災に立ち向かう中で、教育機関としての本学院のなすべきこと、それをなし得たかについて検証する

＜収集対象資料＞

- 東北学院内で記録された事務文書等、東日本大震災に関するすべての資料(文書データ・画像・動画・手書きメモ等、媒体は限定せず)
- 震災の記憶(インタビュー シト)

次資料の収集 ⇒ デジタル化 ⇒ データベース化
(データベースは 部公開予定)

図書館で電子化した資料にオラル
ヒストリを加え、記録集を作成

部局横断で電子化WG / 記録集WGを組織

図書館

広報課

参考文献

- 小塚左和子「そのとき私たちができたこと-東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災-」平成23年度第2回東海地区大学図書館協議会研修会資料 2012
- 加藤孔敏「その時何が起ころい、どのように行動したか-東松島市の場合-」第33回図書館建築研修会 東日本大震災に学ぶ 日本図書館協会 2012 p.47-53
- 柳瀬寛夫「4 家具類一本の落下対策を中心に」第33回図書館建築研修会 東日本大震災に学ぶ 日本図書館協会 2012 p.75-82
- 吉植庄栄・坂本晋代・佐々木智穂・石橋典子・工藤未来・小林真理絵「震災後1年の復旧と災害対策の現状-東北大学および宮城教育大学の図書館・図書室の実例から-」大学の図書館 Vol.31 No.8 2012 p.145
- 東北地区大学図書館協議会「東北地方太平洋沖地震による東北地区大学図書館協議会加盟館の被害状況」(オンライン)
<http://www.library.tohoku.ac.jp/tohokuchiku/earthquake.pdf>(参照 2012-11-4)
- 私立大学図書館協会「東日本大震災で被災された地域の大学図書館に対する支援」(オンライン)
<http://www.jaspu.org/pre/simsa/index.html>(参照 2012-11-6)
- 学校法人東北学院 東日本大震災 東北学院1年の記録 東北学院法人事務局広報部広報課 2012 93p

2012年度 研修会の総括と回顧

研究部 研修委員長 山田 雅子

1. 2012年度研修会の報告について

○ 実施概要

テーマ：「震災に学び、震災に備える」

日程：2012年11月29日（木）～11月30日（金）

場所：中央大学 後楽園キャンパス（東京都文京区春日1-13-27）

開催趣旨：

2011年3月11日に起きた東日本大震災は日本中を震撼させ、図書館にも大きな被害をもたらしました。以来、「今、図書館は何をすればよいだらう。次に地震が起きたらどのように対処すればよいだらう」という問いかけを続けながら、その答えをまだ見出せずにいる方も多いことと思います。

そこで今年度はこの研修会を、震災と図書館に向きあう機会にしたいと考えました。まず1日目は東北地方の図書館で震災を経験、またはその復興にご尽力されている方々を3名お迎えし、自らのご経験をお話いただきます。そして2日目は、saveMLAKのご協力によるワークショップを行います。私たちの職場である大学図書館で大地震が起きた事を仮定したシミュレーション、グループ討議を経て、震災時の対応計画書をまとめます。

この研修会を通じて、今後の震災に向けて今考えられる最善の策を、私立大学図書館間で共有することを期待しています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

プログラム：

1日目： 基調講演「図書館の復興支援と大学の役割」

東海大学工学部建築学科教授 杉本 洋文氏

講演「そのとき私たちができたこと 東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災」

一橋大学 学術・図書部 学術情報課長 小陳左和子氏

講演「東日本大震災からの復旧過程で考えたこと、感じたこと 東北学院大学図書館の経験を基に」 東北学院大学中央図書館 佐藤 恵氏

2日目： ワークショップ形式による研修

「大震災発生 そのとき図書館は？」 SaveMLAK 岡本 真氏 他数名

ポスター展示： 期間中研修会場にて開催

「東北大学附属図書館 写真展示 震災の図書館を振り返る」

「共有しませんか？震災に学んだこと 情報共有のためのポスター展示」

○ 参加者数

申込数 80名 参加77名

○ 特記事項

・ワークショップ開催

2日目はアカデミック・リソース・ガイドの岡本真氏に依頼し、震災復興支援活動を行う SaveMLAK のメンバー8名の協力を得て、実習形式の研修を実施した。

大学図書館の地震発生シミュレーションでは、参加者を6名ずつ13グループに分け、グループ内で

課長、課員、派遣スタッフの役を決め、司会とナビゲータ（防災センター役）のアナウンスに沿って地震発生から数時間を疑似体験し、自分たちが取った対応をまとめた。午後からの振返りでは、ブレイン・ライティング・シートを用いて短時間でグループ毎に全員の所感をまとめ、最後に事業継続計画（BCP）策定に向けての話し合いを行った。

・写真展示・ポスター展示

写真展示は、東北大学附属図書館が2012年5月に学内で開催した同タイトルの写真から28点を抜粋して展示した。同大学から写真データをファイル送付してもらい、研修委員会でパネルを作成し展示した。

ポスター展示は、研修会テーマに関連した以下の3テーマで募集したところ、8大学（城西大学、神奈川歯科大学、獨協大学、桜美林大学、早稲田大学、石巻専修大学、東北学院大学、慶應義塾大学）からの応募があった。

- (1) 東日本大震災時の被災状況とその対応、
- (2) 東日本大震災被災地および被災者への支援活動
- (3) 図書館や大学の防災対策

○研修会を振り返って

研修企画を立てた時は震災からちょうど1年という時期で、各方面で取り上げられる機会が多く見受けられた。その後研修会実施までに半年が経過し、やや関心が薄らいでいるかとの懸念を抱いての開催となったが、逆に「新たに見直すよい機会になった」という声が多く、講演、ワークショップともに参加者の熱気にあふれる研修会となった。

講演者同士が既知の関係で、予め情報を交換する機会もあり、2日間の研修会全体に一体感を持たせることができた。

受講者参加型の研修会は、今年度新たな試みとして実施したが、参加者の反応は、負担が大きいにも関わらず予想以上に好評だった。シミュレーション実施後、同じグループのメンバーで昼食に出かける姿も見られ、参加者間の交流を深める機会にもなった。

研修企画を外部団体に委託したことで、質の高い研修内容となった。一方で、手続きや経費の面では配慮すべき点が多くあると感じた。

研修会アンケートは、すべての項目について8割以上の人から「大変よい」「よい」の回答を得た。

2. 2013年度研修会について

○ 研修会形式

今年度の実績を踏まえて、次年度も実習形式の研修を企画する予定。そのため、次年度は研修会開催費の予算を増額申請した。なお、2014年度以降の研修形式については再度検討を要すると考えている。

○ 研修会日程、会場

桜美林大学（町田キャンパス）で実施予定。会場の都合で50名規模の研修となる見込み。日程調整中。

○ 研修委員会メンバー

事務局が任期満了により東京農業大学から専修大学に交代する。委員長、委員、オブザーバーは継続2年目。

以 上

2012年度私立大学図書館協会東地区部会研究部

決算報告書

(2012年4月1日～2013年3月31日)

収入の部

単位:円

| 科 目 | 予算額(A) | 決算額(B) | 差異(A-B) | 摘 要 |
|----------|-----------|-----------|----------|--|
| 部会交付金 | 2,402,400 | 2,447,900 | △ 45,500 | ①@13,000円 × 0.7 × 264校 ②加盟館追加5校分(45,500円) |
| 研修会参加費収入 | 210,000 | 231,000 | △ 21,000 | 参加費:@3,000円 3,000 × 77 名 × 1 回 |
| 研究会参加費 | 150,000 | 18,000 | 132,000 | 「交流会」参加費:@3,000円 @3,000円 × 6名(一般参加者のみ徴収) |
| 雑 収 入 | 1,000 | 33,002 | △ 32,002 | 預金利息 廃止分科会経費(図書館運営戦略研究分科会) |
| 小 計 | 2,763,400 | 2,729,902 | 33,498 | |
| 前年度繰越金 | 3,046,743 | 3,046,743 | 0 | |
| 合 計 | 5,810,143 | 5,776,645 | 33,498 | |

支出の部

| 科 目 | 予算額(A) | 決算額(B) | 差異(A-B) | 摘 要 |
|-----------------|-----------|-----------|-------------|--|
| 研究会開催費 | 500,000 | 235,845 | 264,155 | 「交流会」(研究分科会参加者の相互交流)の開催 |
| 研修会開催費 | 700,000 | 730,202 | △ 30,202 | 1日目講演会、2日目のプログラム内容を実習・演習形式で実施したため |
| 運営委員会費 | 100,000 | 94,955 | 5,045 | |
| 運営委員・分科会代表者合同会議 | 160,000 | 75,320 | 84,680 | 年2回開催 第1回 5/18 於東京農業大学 第2回11/16 於専修大学 |
| 分科会助成金 | 710,000 | 437,500 | 272,500 | 基本助成: 210,000 円 30,000円 × (6研究分科会 + 1研修分科会) 割増助成正会員: 225,000 円 (5,000 × 45 名) 割増助成正会員(途中参加者1名50%)2,500円 |
| 特別助成金 | 450,000 | 400,000 | 50,000 | 研修分科会支援金(400,000円) |
| 研修委員会費 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 研究部活動費 | 50,000 | 0 | 50,000 | 研究部活動(運営委員会・研修委員会含む) |
| 印刷費 | 350,000 | 246,120 | 103,880 | 研究部報告書:600部 |
| 通信費 | 100,000 | 93,805 | 6,195 | 研修会案内通知、交流会案内通知、研究分科会 会員募集、会員決定通知発送 |
| 運営事務費 | 50,000 | 40,120 | 9,880 | 研究部担当理事校2年目のため減額 |
| 小 計 | 3,270,000 | 2,453,867 | 816,133 | |
| 予 備 費 | 2,540,143 | 0 | 2,540,143 | |
| 次年度繰越金 | 0 | 3,322,778 | △ 3,322,778 | |
| 合 計 | 5,810,143 | 5,776,645 | 33,498 | |

2012年度私立大学図書館協会東地区部会研究部決算報告は、以上のとおりです。

2013年3月31日

東地区部会研究部担当理事校

東京農業大学図書館

監査報告書

2012年度に係る決算報告書及び附属書類について、その証憑書類及び帳簿を監査いたしました結果、適正であることを認めます。

2013年4月5日

東地区部会監事校

青山学院大学図書館

2013 年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部
活動計画 (案)
(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

1. 研究部活動方針

- 1) 研究活動
- 2) 研修活動
- 3) 研究部ホームページの安定的運用

2. 活動計画

1) 運営委員会

研究部の活動計画、予算・決算、研究部の運営その他について協議。
年 8 回程度開催。

2) 運営委員・研究分科会代表者合同会議

研究分科会活動計画・運営その他について協議。
2013 年 5 月、11 月の年 2 回開催。

3) 研究講演会及び研究会

(1) 「研究講演会」の開催

2013 年 6 月 14 日部会総会・館長会終了後に開催。於：國學院大學

(2) 「研究分科会報告大会」(研究分科会活動成果発表)の開催。

2013 年 12 月開催予定。会場未定。

4) 研修委員会

研修会開催(年 1 回)のため、年 8 回位開催予定。

5) 研修会

2013 年 11 月 14、15 日開催。於：桜美林大学

6) 研究分科会

6 研究分科会が、月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施する。

(1) 分類研究分科会

(4) 企画広報研究分科会

(2) パブリック・サービス研究分科会

(5) 和漢古典籍研究分科会

(3) 西洋古版本研究分科会

(6) L ラーニング学習支援研究分科会

休会：逐次刊行物研究分科会、レファレンス研究分科会、理工学研究分科会
情報リテラシー教育研究分科会

7) 研修分科会(単年度活動)

以上

2013年度私立大学図書館協会東地区部会研究部

予 算 (案)

2013年4月1日～2014年3月31日

収入の部

単位:円

| 科 目 | 本年度予算 (A) | 前年度予算 (B) | 差異 (A B) | 摘 要 |
|----------|--------------|--------------|-----------|-----------------------------------|
| 部会交付金 | 2,447,900 | 2,402,400 | 45,500 | @13,000円 × 0.7 × 269校 |
| 研修会参加費収入 | 210,000 | 210,000 | 0 | 参加費:@3,000円 3,000 × 70 名 × 1 回 |
| 研究会参加費 | 0 | 150,000 | △ 150,000 | 2013年度は研究分科会報告大会のため未計上 |
| 雑 収 入 | 1,000 | 1,000 | 0 | 預金利息 |
| 小 計 | 2,658,900 | 2,763,400 | △ 104,500 | |
| 前年度繰越金 | 3,322,778 | 3,046,743 | 276,035 | |
| 合 計 | 5,981,678 | 5,810,143 | 171,535 | |

支出の部

| 科 目 | 本年度予算 (A) | 前年度予算 (B) | 差異 (A B) | 摘 要 |
|---------------------|--------------|--------------|-----------|---|
| 研究会開催費 | 500,000 | 500,000 | 0 | 研究分科会報告大会開催 |
| 研修会開催費 | 800,000 | 700,000 | 100,000 | プログラム内容を実習・演習形式に変更することにより10万円を増額する |
| 運営委員会費 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 運営委員・分科会 代表者合同会議 | 160,000 | 160,000 | 0 | 年2回開催(5・11月) |
| 分科会助成金 | 560,000 | 710,000 | △ 150,000 | 基本助成: 210,000 円 30,000円×(6研究分科会+1研修分科会) 割増助成正会員: 350,000 円 (5,000 × 70 名) |
| 特別助成金 | 400,000 | 450,000 | △ 50,000 | 研修分科会支援金(400,000円) |
| 研修委員会費 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 研究部活動費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 研究部活動(運営委員会・研修委員会含む) |
| 印 刷 費 | 350,000 | 350,000 | 0 | 研究部封筒:3000枚 研究部報告書:500部 |
| 通 信 費 | 100,000 | 100,000 | 0 | 研修会案内通知、報告大会案内通知、研究分科会会員募集、会員決定通知発送 |
| 運営事務費 | 100,000 | 50,000 | 50,000 | 研究部担当理事校交代初年度のため増額 |
| 予 備 費 | 2,761,678 | 2,540,143 | 221,535 | |
| 小 計 | 5,981,678 | 5,810,143 | 171,535 | |
| 次年度繰越金 | 0 | 0 | 0 | |
| 合 計 | 5,981,678 | 5,810,143 | 171,535 | |

《関係規程》

私立大学図書館協会東地区部会研究部細則

(昭和 29 年 4 月 1 日 制定)
(昭和 34 年 5 月 8 日 改訂)
(昭和 34 年 10 月 14 日 改訂)
(昭和 44 年 2 月 18 日 改訂)
(昭和 63 年 6 月 28 日 改訂)
(平成 7 年 8 月 2 日 改訂)
(2000 年 6 月 9 日 改訂)
(2004 年 6 月 18 日 改訂)

第 1 条 この細則は、私立大学図書館協会会則（以下会則という）第 33 条第 1 項第 3 号、第 39 条及び第 40 条に基づいて、私立大学図書館協会東地区部会（以下東地区部会という）に研究部（以下研究部という）を設置し、事務所を東地区部会研究部担当理事校（以下研究部担当理事校という）に置くことを定める。

第 2 条 研究部は、会則第 39 条の目的達成のために次の事業を行う。

- ① 研究会の開催
- ② 研究分科会の育成
- ③ 報告書の発行
- ④ 西地区部会研究会との連絡、情報の交換
- ⑤ その他研究部の目的達成に必要な事項

第 3 条 研究会は研究発表及び研究部の事業についての報告その他を行う。

- 2 会場は東地区加盟校が輪番で担当する。

第 4 条 研究分科会は各研究分科会ごとに適宜開催し、その研究の進行状況、成果その他を研究部担当理事及び研究会に報告するものとする。

- 2 各研究分科会は本研究部より助成金を受けることができる。
- 3 各研究分科会は本研究部より特別助成金を受けることができる。

第 5 条 報告書は第 2 条の各事業の状況及び研究成果を発表するもので、研究部担当理事が編集の責任に当たる。

第 6 条 本研究部には、次の役員を置く。

- ① 研究部担当理事 1 名
- ② 運営委員 8 名

（東地区部会役員校 3 名 東地区加盟校 5 名）

第 7 条 研究部担当理事には、研究部担当理事校の代表者が当たり、本研究部を代表し、かつこれを統轄する。

第 8 条 運営委員は、隔年 4 月東地区加盟館から研究部担当理事が推薦し、東地区部会役員会の承認を得た上、研究部担当理事をたすけて本研究部の運営に当たる。

第9条 研究部には、本研究部の運営を円滑ならしめるため、運営委員会を置く。

第10条 運営委員会は、研究部担当理事が招集し、次の事項を行う。ただし、必要に応じて各研究分科会代表者あるいは当該研究会会場校代表者の出席を求めることができる。

- ① 研究部の事業計画
- ② 研究会の運営に関する事項
- ③ 各研究分科会間の連絡、情報の交換
- ④ 研究部報告の編集、発行
- ⑤ その他本研究部の運営に関する事項

第11条 本研究部の経費は、東地区部会の助成金及びその他を充てる。ただし、必要に応じて実費を徴収することができる。

第12条 研究部の運営について必要な事項は別に定めることができる。

第13条 本細則の改廃は、東地区部会総会の承認を要する。

附 則

- 1 本細則は昭和29年4月1日よりこれを実施する。
- 2 本改訂細則は昭和34年5月8日よりこれを実施する。
- 3 本改訂細則は昭和35年10月14日よりこれを実施する。
- 4 本改訂細則は昭和44年2月18日よりこれを実施する。
- 5 本改訂細則は昭和63年6月28日よりこれを実施する。
- 6 本改訂細則は平成8年4月1日よりこれを実施する。
- 7 本改訂細則は2001年4月1日よりこれを実施する。
- 8 本改訂細則は2004年6月18日よりこれを実施する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会申し合わせ

(昭和 48 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 55 年 6 月 18 日 改訂)

(平成 7 年 9 月 25 日 改訂)

(2002 年 4 月 1 日 改訂)

(2003 年 4 月 1 日 改訂)

(2004 年 4 月 1 日 改訂)

(2005 年 4 月 1 日 改訂)

第 1 条 この申し合わせは、私立大学図書館協会東地区部会研究部に研究分科会を置くことを定める。

第 2 条 本研究分科会は、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則の当該条項に則って活動するものとする。

第 3 条 各研究分科会は、以下の要件を備え、かつ、複数の大学に所属する者若干名をもって構成されるものとし、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得なければならない。

- ① 当該年度の研究テーマ
- ② 当該年度の研究回数
- ③ 当該テーマの研究に必要とされる条件
- ④ 会費徴収額

第 4 条 各研究分科会は代表者 1 名を置くものとする。

第 5 条 各研究分科会の活動期間は 2 年とし、更新することができる。更新にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。

第 6 条 新規に研究分科会を発足するにあたっては、会員更新担当理事に対し、第 3 条の要件を更新年度の前年 12 月までに示さなければならない。

第 7 条 会員更新担当理事は、研究分科会更新前年度の所定の日までに、加盟館代表者に、第 3 条各号の事項を通知し、加盟館における参加者選定の基準を示さなければならない。

第 8 条 加盟館代表者は、更新前年度の所定の日までに、各研究分科会の参加者を決定し、会員更新担当理事に通知するものとする。

- 2 会員更新担当理事は、この通知に基づき、当該研究分科会代表者に諮ったうえ、各研究分科会の会員として登録する。

第 9 条 各研究分科会の活動期間中に、途中入退会者があった場合、研究分科会代表者は書面をもって、月例担当理事に通知するものとする。

- 第 10 条 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。
- 2 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。但し、助成にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。
- 第 11 条 研究分科会代表者は、当該研究分科会を主宰するとともに、毎月末までに翌月の開催計画を、月例担当理事に連絡するものとする。
- 第 12 条 研究分科会代表者は、毎年研究部担当理事に、研究分科会の活動状況及び会計報告をしなければならない。
- 第 13 条 研究分科会代表者は、研究部担当理事の求めに応じて、研究部運営委員会に出席することができる。ただし、議決権を持つことができない。
- 第 14 条 各研究分科会は、その研究の成果を研究部の開催する研究会において原則として発表しなければならない。
- 第 15 条 研究分科会代表者は、毎年 2 回（5 月・11 月）開催される運営委員会・代表者合同会議に出席しなければならない。但し、代表者が出席できない場合は代理による出席を認める。代理も不可能である時は、特に研究部が認めた場合この限りではない。
- 第 16 条 本申し合わせの改廃は、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得て行うものとする。

付 則

- 1 本申し合わせは、2004 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 本申し合わせは、2005 年 4 月 1 日から施行する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研修委員会規則

(昭和56年4月 1日 制定)

(平成 2年4月 1日 改正)

(平成 8年3月28日 改正)

第1条 この規則は、東地区加盟館館員の資質の向上を図るため、私立大学図書館協会東地区部会研究部（以下研究部という）に、研修委員会（以下委員会という）を設置することを定める。

第2条 前条の目的達成のため委員会は、次の活動を行う。

- (1) 研修会等に関する情報の収集、提供
- (2) 研修会等の企画、実施
- (3) 関連する機関、団体との連絡・協力
- (4) その他目的達成のために必要な活動

第3条 委員会は6名の委員をもって構成し、うち1名は研究部担当理事校（以下担当理事校という）から選出する。

第4条 委員の任期は2年とし、再任はさまたげない。ただし、担当理事校から選出された委員の任期は担当理事校の担当期間とする。

第5条 委員に欠員が生じた場合はすみやかに補充するものとし、その任期は前任者の残任期間とする。

第6条 委員会は研修会等を企画・実施する際、その必要に応じて、実行委員若干名を置くことができる。

第7条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は委員会を招集し、議事を進行する。

第8条 委員長及び委員は東地区加盟館から研究部担当理事（以下担当理事という）が推薦し、東地区部会役員会に諮り、これを委嘱する。

第9条 委員長は委員会の活動について、担当理事に対し、少なくとも年2回以上報告しなければならない。

第10条 委員会の事務経費については、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則第11条を準用する。ただし、研修会等を実施する際の費用は、原則として受益者負担とする。

第11条 委員会の運営に関する事項は委員会申し合わせとして別に定めることができる。

第12条 この規則の改廃については研究部運営委員会の承認を必要とする。

附 則

この規則は平成8年4月1日より施行する。